

平成28年6月14日(3)

開議 10時00分

○議長 磯永優二君

皆さん、おはようございます。ただいまの出席議員は、13名であります。

それでは、これより本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問2日目を行います。

順次質問を許可します。

平成豊友会の一般質問を行います。まず、最初に、秋成英人議員。

○2番 秋成英人君

平成豊友会の秋成英人でございます。私たちのふるさとであります豊前市の未来のため、粉骨砕身、取り組んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、通告に従い、一般質問に移らせていただきます。

まず、今日の豊前市は、大きな変化、改革に直面しているのではないかと感じております。と言いますのも、東九州道の開通に加え、総理大臣はデフレの脱却まであと一歩、とおっしゃっていますが、地方ではまだまだ実感することができず、早急に手を打たなければ消滅自治体になるのではないかという懸念と、その反面、政策のコンセンサスを地域住民とうまくとり、じっくりと時間をかけ、政策を練らなければ、地方創生という言葉に足をすくわれてしまいかねない。未来の子どもたちにツケを残しかねない状態に直面しているのではないかと感じております。

先ほども申し上げましたが、東九州道という近年で最大の超大型インフラ整備も、今4月、開通を迎え、今後どうこの高速道路と向き合い、豊前市独自の政策を作っていくのか、非常に大きな課題であると思います。そこで、まず観光施策について、質問させていただきます。

東九州道が開通し、この地を通過する交流人口は減少していると実感として感じております。先日の新聞記事でも、道の駅おこしかけの売り上げが、約34%も減少しているとの記事を見て、私は大変驚きました。このことは、豊前市の交流人口が開通以前に比べ減少しているのではという、一つの試算であると懸念している次第であります。

そのような中、豊前市もその対策の一環として、観光協会を立ち上げ、取り組もうとしている姿勢は感じておりますが、その実際の現状をお聞きしたいと思います。

まずこの観光協会、メインの事業はどういったものであるのか、担当課長、お答えください。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 中川裕次君

観光協会につきましては、行政、民間事業者と一緒に なりまして、豊前市の観光振興に努めてまいるものでございます。

○議長 磯永優二君

秋成議員。

○2番 秋成英人君

分かりました。それでは4月からオープンしていると思いますが、今日までの間で、道の駅おこしかけ、宇島駅前各観光協会において、それぞれ何件の観光に関するお問い合わせがあったか、担当課長、お答えください。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 中川裕次君

観光案内業務につきましては、道の駅おこしかけに12月に観光案内所を設置させていただきました。

ただ、有人による本格的な観光案内を開始したのは、今年の3月、4月でございます。1月は、道の駅の職員の方に7日ほど、忙しいときに観光案内を、人手の多いときをお願いをしております。その合計、1月、2月、3月、4月の観光案内の実績は882件でございます。

また、宇島駅前に3月に観光協会事務所を開設いたしました。4月から特産品の陳列と共に訪ねて来られる方に観光案内をしております。宇島駅前の観光案内事務所の直接の観光案内の実績は20件でございます。

○議長 磯永優二君

秋成議員。

○2番 秋成英人君

立ち上げたばかりでありますから、そのくらいなのは仕方がないと思いますが、私も議員であると共に企業の経営者としての立場から申し上げさせていただきます。

当然、目標値というものは設定していらっしゃると思います。行政の行う事業に関して、費用対効果を申し上げるのもどうかとは思いますが、市民からの貴重な税金で運営している以上、家賃や付随する経費、人件費も発生していることに対し、当然のことながら運用に関して明確な説明責任があると存じます。

そこで、今年度、この観光協会で見込んでいる、また目標としている観光協会の利用人数、問い合わせ人数を担当課長、お答えください。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 中川裕次君

観光案内業務につきましては、訪れていただいた方が直接声を掛けてこられて、ここはどういうふうに行ったらいいのかとか、どういう食事処があるのかとかいう問い合わせに答えたものでございまして、その他にパンフレット・チラシ等を配布させていただいたり、そういった案件もかなりございます。

具体的に月に幾ら、年間幾ら観光案内をするという定かな目標数値等の設定はまだできておりませんが、出来るだけ多くの方に知っていただけるように、観光案内所の存在、また観光協会事務所の存在を、今後広く周知を図っていきたいと考えております。

○議長 磯永優二君

秋成議員。

○2番 秋成英人君

私は、これからの行政は、税金を投入している以上は、その目標を設定する必要があるものは、設定すべきであると思っております。

観光協会におかれましては、豊前市のPR活動も含め、豊前市を売り込む営業部長であると考えております。それゆえに目標は設定すべきであると考えますが、市長、その点について、お考えをお答えください。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

観光協会について、鋭い質問をいただきまして、ありがとうございます。

確かに税金を使う以上、投資対効果、それなりに効果が見えないといけない。交流人口が増えて、そして豊前市を訪ねて来る人が多くなり、いわば経済的効果が出る、それが目的の一つでございます。

そのためには、観光案内所などを使って、いろんな働きかけをします。先ほど申し上げましたように、聞かれた人に答える、聞かれない人には売り込んでいく。そういう接触をする場所が案内所であり、観光協会の拠点でございます。そういう意味では、税金を使っておりますので、受け身だけではなくて、攻めていく。いろんなかたちで攻めていく。SNSも含めて、そういうものを駆使しながら、豊前を売り込んでいくというところからでございます。

目標につきましては、それぞれ短期・長期がありますが、私は、やはりいま持っている観光資源を、どれだけ利用していただけることができるのか、過去の数字に負けない、超えていく、その辺を目標にすべきだと思っております。

○議長 磯永優二君

秋成議員。

○2番 秋成英人君

有識者会議を設置された、いろいろな方からの意見も広く集約されたと聞いていますが、私が聞く限りでは、その会議の中で、高速道路の出口付近で行うべきであるという意見もあったと伺っております。

その理由は、豊前市に観光で訪れる方のほとんどは車での移動であり、電車を利用していらっしゃる観光客は少ない、との意見だったと伺っております。

そのような意見が多い中、電車を利用する観光客の見込みがある程度以上あるからこそ、現在、宇島駅前にも観光協会を立ち上げたものだと思います。どの程度、この見込みがおりなのか、市長、お答えをお願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

議会の皆様からも質問を度々受けまして、どこを拠点にするのかという議論がありました。そうした中で、やはりJR宇島駅の前に観光協会をつくるべきだという結論に達して、今があるわけであります。

これを確かに高速道路の付近という御提案もあると思います。しかしながら、すぐにある時点で建物を建て、そして、というところまでは、中々経費を含めて現実的でないという判断があったように思います。そのために、高速道路の降り口付近には案内板を立てて、そして誘導していくという、そういう方法を現状はとったということでございます。

○議長 磯永優二君

秋成議員。

○2番 秋成英人君

現在の豊前市の状況を鑑みると、他の地域の観光協会は駅前にあるというだけの画一的な政策理由だけではないと感じております。

豊前市には、豊前市の観光政策がおりであると思いますので、その理由も併せて、市長、お答えをお願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

駅前に決めた理由というふうにお伺いしました。駅前に決めた理由は、私だけの結論ではなくて、組織として、市役所として、議会の御意見を聞きながら決定したことございまして、その理由というのは、やはり協議の中で、そういう方向性が固まったということでございます。

○議長 磯永優二君

秋成議員。

○2番 秋成英人君

私は、何も駅前の観光協会が悪いと言っているわけではございません。しかしながら、冒頭に申し上げましたように、スピード感を持ち取り組む政策と、住民のコンセンサスをしっかりと行い、協力をしっかりと担保しながら行わなければならない政策が、これからの行政には必要であると申している次第であります。

それを如実に感じるのには、この観光協会の取り組みの一つに、豊前市の観光を推進していくにあたり、従前より観光ボランティアの育成について協議されていたと記憶しております。

実際に観光ボランティアを募集したところ、応募人数が少ないからという理由で、応募した人に対して、観光ボランティア制度自体を延期したというような話を伺ったことがあります。本当でしょうか、担当課長、お願いします。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 中川裕次君

応募したというような引き継ぎ、記憶等はありません。調べさせていただいたと思います。

○議長 磯永優二君

分かる人、答弁。

商工課長、答弁。

○商工課長 大谷隆司君

観光ボランティア、アメニティ事業等で観光ボランティアを募集し、また研修した経緯がございます。それは、いま観光ガイドボランティアに協力していただいております史跡ガイドボランティアの皆さんとか、一部タクシーの運転手の方とか、そういう方々を対象にした経緯がございますが、それ以外はちょっと私もいま記憶にございません。以上です。

○議長 磯永優二君

秋成議員。

○2番 秋成英人君

私はですね、実際に断られたという方からお話をお聞きしました。担当課長、把握されていないのは、おかしいのではないですか。担当課長、お答えをお願いします。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 中川裕次君

申し訳ございません。その点につきましては、調べた後、議員のほうに報告をさせていただきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

秋成議員。

○2番 秋成英人君

応募した方が、少なくとも善意のボランティアを申し出た人がいらっしやった以上は、観光ボランティア制度自体を延期する必要はなかったのではないかと思います。少人数からでも徐々に育成していく必要があると思いますが、どのようにお考えでしょうか。

このことは、住民に協力を募る上で、やはり協議が不十分であったということをお話しているのではないのでしょうか。実際に手を挙げていただいた方にお断りする上で、どのような対応、例えば、再度募集をかけるとした上で、今回の教訓をどのように反映し、対策を打っていくのかという部分について、お答えください。

また、今回募集に手を挙げた方に対する今後の情報提供は、どう行っていくのか、担当課長、お答えください。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 中川裕次君

観光物産課のほうでは、今年度、観光ボランティア育成のための事業に取り組む予定にしております。

事業育成の取り組みにつきましては、そういう観光ボランティアに応募されたような方につきましては、その事業の際に御案内をさせていただき、また一般の市民の方につきましては、広報を、ホームページ等を通じて、またいろんな観光施設に応募のチラシ等を置きまして、公募を図りたいと考えております。

○議長 磯永優二君

秋成議員。

○2番 秋成英人君

観光協会の質問の最後に、市長に観光協会に対する決意のお答えをお願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

地方創生の時代を迎えまして、私たちも観光振興というのは、大きなテーマに掲げております。

歴史的な資源、自然環境、そして暮らしを含めた人間、人情、そういうものを都市生活者の皆さん、特にそういう広域の人たちに、東九州自動車道開通という、広域からより来やすくなったと言いますか、時間距離が短くなったという、その利点を生かしながら、他にない観光資源を提供していく。これは私たちに与えられた、その資源を、どのように生

かしていくかという、知恵を試されているところでもございます。

限られた予算、財源の中で、その効果を最大に発揮する、その先頭に立っていくのが観光協会であると思います。観光資源を3月に国指定重要無形民俗文化財になりました神楽などを含めて、もっともっと他の地域の方々に知っていただき、豊前のすばらしさを伝えたい。また、うみてらすについても、森林セラピー基地豊前につきましても、同じくでございます。そういう点でバラバラの所を観光協会がきちっと束ねて情報提供していく。

まだまだ観光協会、弱体でございますが、観光協会の体制を早急に整えて、しっかりと豊前のすばらしさを売り込んでいき、そして交流人口を増やし、豊前市を知ってもらい、経済効果が上がるように努力していきたいと思っています。

○議長 磯永優二君

秋成議員。

○2番 秋成英人君

それでは観光協会に関しては、先ほどの質問で終わらせていただきますが、多くの豊前市民の皆様の興味の一つに、先日オープンしました、うみてらす豊前があると思います。

オープニングセレモニーに私も参加し、お客様の楽しそうな顔を見ることができ、胸をなでおろしているところでございます。

しかしながら、販売されているのは、魚がメインではありましたが、一部、肉や野菜、お弁当などを売っているのも拝見いたしました。

そこで質問ですが、道の駅おこしかけと、うみてらす豊前のすみ分けに関して、お互いの施設が相乗効果を生むことが目的であろうかと思いますが、今後この豊前市の顔と言っても過言ではないこの2つの施設、豊前市として、どう共存共栄していくおつもりなのか、市長、お答えください。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

6月7日にオープンいたしました、うみてらす、非常に大きな反響を呼びまして、今まで来たことなかったような所から来ていただいております。テレビで紹介されて、なお来場者と言いますか、お客様が増えている状況にあります。

その方々の中で、もちろん道の駅を通して、通過して来られる方、直接来られる方、いろいろあります。初めて豊前に来られた方も、私も直接お話を聞きながら、今まで全然知らなかった、豊前は面白い所やね、という話も聞かせていただきました。

そうした人たちに、お魚だけではもったいないという気持ちから、指定管理を受けていただいております漁協のほうで運営をしておりますので、その運営の判断で、先ほど言われた野菜や肉類なども提供し、お土産品を提供している。

そしてそれを切っ掛けに、あっ、こんなものを出来るんですねという、いわばセールスカウンター、豊前の特産品を紹介する場所、そういう意味でも、うみてらすの一部が役割を果たしていただいている、そういうふうに認識しております。以上です。

○議長 磯永優二君

秋成議員。

○2番 秋成英人君

大きな予算を取り、執行部一丸となって、やっとオープンにこぎ着けた、これからの施設である、うみてらす豊前が、先日、オープニングセレモニーにて、議長がおっしゃっておいりましたように、出来上がったものは、執行部一丸で取り組んできたものから、豊前市一丸となって成功に向かっていかなければならないと思います。その上で、このうみてらす豊前が、今年度どの程度の売り上げの見込み、また何名の来客数の試算を考えていらっしゃるのか、お答えください。

またその数字を踏まえ、道の駅おこしかけとのお客様の取り合いにならないかということも、非常に興味があります。その試算も併せて、担当課長、お答えください。

○議長 磯永優二君

農林水産課長、答弁。

○農林水産課長 生田秋敏君

うみてらす豊前の収入ですけど、宇島豊築丸の収入ですが、指定管理者の資料によりますと、7378万円、支出が6847万5000円。収支は530万5000円になっています。来客数の見込みですが、2万8550人になっています。以上です。

○議長 磯永優二君

秋成議員。

○2番 秋成英人君

うみてらす豊前も道の駅おこしかけも、どちらも揃って豊前市の顔であると感じております。ぜひですね、執行部の皆様がおっしゃったような結果を出せるよう、取り組んでいただきたいと思います。

以上で、観光に関する質問を終わらせていただきます。

次の質問に移ります。豊前市の治安についてお伺いしたいと思います。

まず、この質問を行うにあたり、豊前市内校区別の人口の推移、高齢化率をお答え願います。特に三毛門地区では、世帯数が増えているという話を聞いたことがあります。他の地域と比べ人口減少率が少ないのか、担当課長、お答え願います。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えいたします。まず、人口の推移でございますが、現在、昨年、国勢調査をやっておりますが、まだ結果が出ておりませんので、住民基本台帳から、三毛門地区の今年の4月の数字と、10年前の同時期と比較して、お答えさせていただきたいと思っております。

まず、今年の4月が三毛門地区、4322人、10年前が4245人と、10年間で77人の減、減少率で1.8%の減となっております。

同じく、豊前市全体の人口動態について比較いたしますと、今年、4月の全体の人口が、10年前が2万8319人、今年が2万6484人と、10年間で1835人の減、減少率で申しますと、6.5%の減となっております。大変大きな数字でございますが、これを見ますと、三毛門地区の人口減少率は、豊前市全体の人口減少率に比べますと、緩やかなものになっているというふうに考えております。

これを地区ごとで見ますと、特に三毛門地区は、10年前の477人から482人とプラス5人の増、市丸地区は、510人から552人、プラス42名増えております。森久地区にあっては、89人から129人、40人の増ということでございまして、特に宅地分譲等が市内で最も進んでいる地域でございまして、そういうのが人口の減少を押し下げているのだろうと考えております。

それと後、高齢化率の御質問がございました。三毛門地区の65歳以上の比率が29.1%でございます。豊前市全体で65歳以上が、いま34%でございますので、豊前市平均に比べて4.9ポイント低い状況でございます。特に区ごとに見ますと、比率の高いのが、三毛門上が53.3%、出屋が43%、杵川中が60%、杵川西が49%と、高齢化が非常に進んでいる状況もあります。

また若年層でございますが、三毛門地区、20歳未満の比率が21.3%でございます。豊前市全体では、20歳未満の比率が16.7%となっておりますので、豊前市全体平均より4.6ポイント、若年層が多いというような状況になっています。

特に多い所が、三毛門団地が43.5%、団地でございますので、若い方が住んでいる。あと市丸が29%、六朗が27.4%、森久が25.6%と、先ほどの宅地開発が進んでいる地域とほぼ一致するような状況があらうかと思っております。以上でございます。

○議長 磯永優二君

秋成議員。

○2番 秋成英人君

いま課長のほうから御説明がございましたが、このことでも分かりますように、いま豊前市において三毛門地区の人口並びに高齢化率の低さが物語っているように、三毛門地区は若い子育て世代に人気のエリアであり、これから住居を考える世帯は、まず候補を挙げる地区であると伺っております。

私も豊前市以外の方々に胸を張って申し上げることの一つに、治安の良さ、人の温かさ

を常々申し上げておりますが、これだけ多くの方が今後交流を続ける三毛門地域を、従来の住民の見回り、監視のみで今後守っていけるのかという点では、少し不安を感じております。

そこで、今後、豊前市において若者の定住を見込むことができる中で、地域住民とどう対策を講じていこうとお考えなのか、担当課長、お答え願います。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えします。三毛門地区の防犯対策でございますが、三毛門については、市内でも、特に宇島駅、松江駅、三毛門駅と、駅のある地域でございます。過去に無人化により、一時、駅周辺がたまり場になって、駅舎が崩されるとか防犯対策が問題になった時期がございます。

そういう中で、地元の区長会の皆さんが立ち上がりまして、駅舎の維持管理や防犯、駅舎の活性化対策などの活動を現在お願いしておりまして、区長会を中心にオアシス運動、明るい駅舎に向けて、地域一体で取り組んでいるところでございます。

そういう中で、先ほどありました防犯の関係であります。以前、これは県警のほうに確認したんですが、交番と駐在所の配置を管内の治安状況に応じた効率的なものにするために、再編計画を作っておりまして、平成15年8月、県下一斉に実施をしております。

その中で、交番が県下276箇所から224箇所、駐在所が294箇所から107箇所に減少しております。特に豊前市では、このとき、大村、千束、宇島、三毛門、黒土、横武、岩屋の7駐在所が廃止をされております。

現在は、角田、山田、合岩の3地区と宇島駅前の交番の1箇所の計4箇所という状況でございます。こういう状況の中で、県は警察署の管轄地域全体で活動できるパトカー、あとミニパトですね、それと白色バイクを増強整備しまして、パトロールや立ち寄り所への立ち寄り強化、また職務質問、家庭への立ち寄り強化をしているというところでございまして、この結果、10年前と比べますと、犯罪等が約56.6%減っているという状況をいただいているところでございます。

引き続き、警察と地域住民の皆さんと連携して、治安の安全に向けて努力したいと考えているところでございます。

○議長 磯永優二君

秋成議員。

○2番 秋成英人君

住民の皆さんと、今後の対応については理解いたしました。しかし、課長が言われました、一般の人の力だけでは限界があるのではないかという不安も少しではありますが、払

拭できない点がございます。

そこで、これは私からの提案でございますが、課長も先ほど答弁されましたが、平成15年までは豊前市に多数あった駐在所なのですが、大規模な統廃合が行われました。宇島、大村、千束、横武、黒土、三毛門地区からは駐在所が廃止され、宇島駅前交番に業務が統合されました。

理由として、近年、コンビニエンスストアの増加やライフスタイルの変化などにより、以前に比べての夜間の防犯が増えたため、その対応のための措置であるとお聞きしております。これは、豊前市のみならず、福岡県全域で行われたもので、多様化する犯罪に対応するためには、仕方がないことであったと思います。

しかしながら、状況というものは、刻一刻と変化していくものであります。繰り返しになりますが、三毛門地区は、若い子育てに人気のエリアであります。これから住居を考える世帯は、まず候補に挙げる地区であり、当然のことながら、乳幼児や就学児童が多い地域でありますので、青少年の育成、非行防止のためにも、地域ぐるみで見守る必要があると感じております。

今後も安心して住んでもらうことができるような対策を、豊前市にはぜひとも講じていただきたいと思っております。

平成15年に廃止になった三毛門交番についても、もう一度検討すべき時期になったのではないかと考えております。常時警察官がいなくても、交番があるだけでも犯罪に対する抑止力というものは働くものです。交番の新設は非常に難しいと聞き及んでいますので、すぐにといいわけにはいかないと思っておりますが、まずは豊前市では交番設置にあたり、市有地を提供する用意がある、という要望をあげていただきたいと思っておりますが、そのような方法は可能でしょうか。担当課長、お願いします。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えいたします。いま議員さんの御指摘のとおり、三毛門地区について、未成年者が年々増加しているということでございます。

また三毛門駅舎もあるということで、ここ5年間を取ってみますと、やはりそういう刑法犯の発生件数が30件から47件と増加傾向にあるというふうに私どもも認識しているところでございます。引き続き、パトロールの重点化など、豊前警察署に要請してまいりたいと考えております。

あと駐在所の新設につきましては、まず豊前署を通じて、県のほうに要望していきたいというふうに考えておりますので、御理解のほど、よろしくお願ひしたいと思っております。

○議長 磯永優二君

秋成議員。

○2番 秋成英人君

地域の防犯、治安に関しては、市民の一番の関心事であろうと思います。これからも安心安全に暮らせるようなまちづくりを目指したいと、決意を新たにいたしました。

最後に、住民の生命と財産を守ることが政治家としての第一義であると感じております。市長の防犯に対するお考え、今後の取り組みをお聞きしたいと思います。市長、お願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

御指摘いただきましたように、住民の生命・財産を守るというのは、最大の責務でございます。そういう意味では、安心して暮らせる地域づくり、我々が行政執行の上で最も大事にしていかなければならない、安心して暮らせる安全な地域づくりというのが我々の最大の課題でもあります。

いま御指摘をいただきました三毛門地区につきましては、確かに流入人口が多く、新旧住民入りみだっておるとというのが実態でございますし、先ほどから議論があつていすように、三毛門駅前につきましては、より安全な地域として、他の人を含めて迎え入れたいというところでございます。

それがまた安心安全なまちのシンボルにもなるという意味で、これは交番じゃなくて、駐在所でございます。

(秋成議員「はい」の声あり)

駐在所の設置要望につきましては、ぜひ私たちも出来る限り努力をしていきたいと思つています。そして、その駐在所があるということを経験に、より安心して暮らしやすい、住みやすい三毛門まちづくり、そういうイメージも出来るんではないかと思つています。努力をしていきます。以上です。

○議長 磯永優二君

秋成議員。

○2番 秋成英人君

以上をもちまして、私の一般質問を終了させていただきます。

本日はありがとうございました。

○議長 磯永優二君

以上で、秋成英人議員の質問を終わります。

次に、福井昌文議員。

○7番 福井昌文君

豊友会 2 番目に質問を行います、福井と申します。執行部の前向きな答弁に期待いたしまして、早速質問に入りたいと思います。

1 番目に、高齢者対策についてをあげています。市バスは、基本的に免許のない高齢者や病気で病院に通院する方々、あるいは児童たちの通学の足となる豊前市になくてはならない交通機関だと考えます。

しかし、いま現在の豊前市内のバス停を見ますと、非常に貧相で、中にはどこにあるか分からないバス停も多いようであります。この状況をどう思われますか、御意見をお聞かせください。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

福井議員の御質問にお答えをいたします。現在、設置しておりますバス停につきましては、既に 14 年が経過をいたしまして、また形状から、バス停としては大変分かりにくい、一般のバス停とはちょっと違うような形状をしております。初めてバス停を利用する人にとっては、見つけにくい状況があるというふうに考えております。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7 番 福井昌文君

私も、この質問を行うために、いろいろバス停を見て回りました。豊前市の時刻表も、A4 の紙をラミネートフィルムに挟んで貼っているというような状況であります。

他の近隣の上毛町などは、昔、丸くて大きいバス停がありましたね、あれの縮小化、それに時刻表もちゃんと載せています。写真も撮っているので、また後で見せてあげたいと思いますけれども、そういうふうなやっぱり高齢者、また弱者にやさしい、分かりやすいバス停にするというお考えはないでしょうか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えします。現在、昨年から地域公共交通会議の中で、バスの見直しについては、その会議の中で議論をしております、今 6 月末に最終的な豊前市地域公共交通網形成計画の審議をする予定にしております。

この中で、いろいろ市民アンケート、区長さんのアンケート、事業者さんのアンケートをいろいろ実施したところがございますが、そういう中にも、いま議員が御指摘いただいた、バス停が分かりにくいという御指摘もいただいております、昨年の事業の中で、3 基だけ、試作で作り変えた部分がございます。駅前と丸食の前の部分で、いま現在、設置

していますが、そういうことで、順次、その施策に基づいて、バス停等も今後そういうことで形成計画を作って、国県等の補助事業に乗せていこうということで、いま見直しをやっておりますので、そういう補助制度もありますので、そういうのを活用して、順次取り替えていきたいと考えているところでございます。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

利用される方々は、課長、先ほども申しましたが、高齢者や病院に通院する方、また児童たちと、弱者の方が非常に多いわけです。その方々が夏の猛暑の中、そしていま集中豪雨なども増えています。そういった中で屋根もない、腰かけるベンチもない、そういうふうなバス停でバスを待っているわけです。ぜひですね、いま課長が言われたような補助金等を探して、豊前市のバス停の改善に努めてもらいたいと思います。

そして次にバスの時刻表でありますけれども、時刻表等の通達とかは、今はどのようにしているのでしょうか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

バスの時刻表については、大きな改正があったときに、市民の皆さんに市報を通じて配布しているところでございます。直近では25年度に1回大きな見直しをしたところで、そのときに市報を通じて配布したところであります。

それ以外の小さな修正等につきましては、コストの関係もございまして、バスの中に、そういう時刻表を置いているという状況でございまして、逐次、利用者の方にとっていただくという状況でございます。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

この件は、私も知らなかったんですけれども、老人会の総会の際に、ちょっと高齢者の方からお聞きしたんですが、バスの時刻表を知るために、独居老人ですから免許もない、そういう方がバス停まで行って控えて帰らなければならない。こういうような状況でありますので、1年に一遍でも、3月でもいいですから、市報等にバスの時刻表を配布するとか、そういったお考えはどうでしょうか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

ぜひ、前向きに見直したいというふうに考えております。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

ぜひ、お願いしたいと思います。

次に、同じく高齢者対策についてであります。防災の件で質問させていただきます。高齢者の方々におかれましては、災害時の緊急通報は、情報収集や自主避難を行う上で極めて重要なことと考えます。

特に防災無線は、豊前市で唯一の緊急通報システムであります。熊本大震災のときなど、音声が大きすぎるや、響いて何を言っているのか内容が聞き取れない、あるいは聞こえづらいと、大変苦情も多かったようではありますが、今後のお考えをお聞かせください。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

防災無線の件について、御質問をいただきました。議員、御指摘のとおり、屋外に設置したスピーカーにつきましては、構造上の問題から聞こえにくい状況が発生することについて、様々な御意見をいただいているところでございます。

市としても、この対策として、戸別受信機の配布などの方策が必要であるというふうに認識しているところでございます。

この戸別受信機等の導入につきましては、現在入れております、このデジタル行政防災無線を最大限に活用した中で、どのような方式がベストなのかということで、もう既に4方式に絞り込みを行って、具体的に検討しているところでございます。

現在のデジタル防災無線に対応したデジタル戸別受信機の導入というのが、一つあるかと思えます。それと隣町とFMコミュニティ放送を活用した防災ラジオというのがございます。それと後もう1つは、地域コミュニティ無線による方法という、別途の新たな免許を取ってやる方式がございます。それと前回から御説明しております、国が進めておりますV-Lowマルチメディア放送に対応したデジタル防災ラジオの導入というのがございます。このV-Lowにつきましては、3月からもう既に放送が開始されておりますが、残念ながら北九州市までの電波しか届いていないということで、現状では、豊前市に中継局を設置しないと活用できないという状況がございます。

いずれもそういうところで価格の問題、あと利用上の制約などのメリット・デメリットがございますので、これを受けて、豊前市での具体的な課題を整理して、必要経費を算出しまして、また国の財政支援の対象になるもの、ならないもの、それぞれの方式を比較検討して、近く検討委員会を設置し、今年中に方向を出したいと考えておりますので、今し

ばらくお待ちをいただきたいと考えております。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

この防災無線は、幾度となく他の議員からも質問が出たと思います。市民にとって、いま上位のほうの、一番心配しているところではないかと思っております。これを迷惑掛けたのだから、やはり最終的には戸別受信機、これが私は一番いいと思うんですけども、課長、どう思われますか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

そうですね、一番良いのは全戸に戸別受信機を設置するというのが一番いい方策だろうと思いますが、やはり非常に1台当たり高い状況でございまして、また国の補助、起債事業に乗せるとなると、一定の制約等もありますので、その中で豊前市にとってベストな方法をしっかり協議していきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

金額がはるといっても分かりますけれども、それで質問しますが、以前、市町村災害基金協会の解散時に、私が記憶しているところでありますと、確か1億8000万円くらいの基金が積み立てられたと記憶していますけれども、その活用は、どのようにされているんですか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えします。その基金につきましては、いま豊前市の基金に積んで、それに活用するために残しております。これから事業計画を作る中で、実施に当たっては、その1億8000万円ほどございますが、その基金を活用したいと考えているところでございます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

ぜひですね、こういったのも利用して、補助金も探していただき、早急に早い解決をするべきだと思います。

副市長、バスも防災無線もあわせて見解をお願いします。

○議長 磯永優二君

副市長、答弁。

○副市長 榎本義憲君

高齢者のバス対策につきましては、非常に大事な交通機関であります。市民の皆さん方の要求、あるいは御意見を尊重しながら、議員の指摘をまた考えながら、各課で調整をし、バスの利用については、良い方向をつくっていきたいと思います。

また防災無線につきましても、同様に、市民の皆様方が安心安全で過ごせる、そういった市民生活を安定させるためにも重要な施策であります。基金が1億8000万円あります。各家庭に配布ができる、そういった方法を市内でよく調整し、そういった実現に向けて、本年中に結論を出したいと思います。よろしく申し上げます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

ぜひ、お願いしたいと思います。最初の市バスの件もそうですが、防災無線の対策におかれましても、行政というものは、弱者にやさしい行政でなければならないと思います。ぜひ、執行部の最大限の努力に期待いたしまして、次の質問に移らせていただきます。

次に、湾岸道路についてであります。我が豊前市にとって、周防灘湾岸道路は、この地域における交通量の緩和、特産品の流通、観光振興、企業間のアクセスなど、その果たす役割は極めて大きく、早急に取り組むべきではないかと考えます。執行部の見解をまずお尋ねいたします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

質問にお答えさせていただきます。本2月議会におきましても、同様に福井議員のほうから御質問をいただいた経過がございます。そのときも市長、副市長のほうから、近隣自治体と連携をして、建設に前向きに取り組んでいく旨、御答弁を申し上げているところでございます。

具体的な取り組みといたしましては、北九州・京築地区の8市町で構成されております、京築北九州東部振興会議と県北東部の17市町で構成されております、福岡県北東部地方拠点都市地域整備推進協議会におきまして、国の関係省庁、あるいは県に対して湾岸線道路建設促進についての現在、要望を行ってございます。

今後も引き続き、周辺市町と連携を図って、要望活動を続け、道路の建設実現に向けてを求めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

課長、その前に、以前は東九州自動車道、これが開通していなかったわけで、こっちのほうが一先という意見がございました。東九州自動車道も開通したわけであります。その後の取り組みは、どういったことを行っていますか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

いま議員から御指摘のありました関係は、京築地域の関係市町等で組織しております、周防灘湾岸線道路建設促進期成会についてかと認識しておりますけれども、現在、活動が休眠状態となつてございます。

それで、議員のほうからも御指摘がありましたけれども、本年4月、東九州自動車道が全面開通したことも鑑みまして、今後は湾岸線道路の建設実現に向けて、活動を再開する方向で近隣市町村に働きかけてまいりたいと存じております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

いま期成会は、協議等は行っているわけですか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

平成6年に前身の期成会が結成されまして、13年までは県知事等に陳情活動等を行っておりますが、13年以降は活動が休止された状態で、平成23年に理事会で活動の再開について議論した経緯がございますけれども、現在、再開の活動には至っていないという現状でございます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

せっかく期成会をつくっているわけですから、東九州自動車道も開通しました。早急に行ってもらいたいと思います。

確か、これは120万円くらいの予算も残っていたのではないかと思います。早急に、また再開して協議してもらいたと思います。市長、どう思われますか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

東九州自動車道が4月24日に開通いたしました。新たなパイプとして、この京築を結ぶ重要な道路計画、これは計画にまだなっておりません、道路構想でございます。平成13年まで活動していた期成会、眠ったままでございますので、次回、こういう機会を京築の首長、市長・町長が揃う席で提案をしていきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

ぜひ市長、早急に、もう東九州自動車道も開通しました。次は、私は湾岸道路が非常に大事だと思っています。ぜひお願いしたいと思います。

次に、県や国に事業推進をするにあたっての独自予算等は考えておられますか、お尋ねします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

通常の活動の中で、県へということもございます。また上京する機会もございますので、そういったときにしたいと思っておりますが、まず関係市町が集まりまして、意思を統一するということが前段だと思っております。

テーマとしては、皆さん理解しておりますが、それぞれ事情があるかと思っております。それから平成13年当時からメンバーも入れ替わっているところもございますので、その辺の意思統一をまず図りたいと思っております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

ちょっと私も聞いたところによりますと、こっちの福岡県北東部地方拠点都市地域整備推進協議会ですか、これで県に要望しているとお聞きしていますので、この期成会のほうも、やっぱり新たに立ち上げていただいて、お願いしたいと思います。

次に、豊前市の都市計画道路の臨海工業線の計画は、豊前東芝方面となり、吉富町へ接続されておらず、京築北九州東部振興会議等の要望内容が一致していないことは矛盾があり、都市計画道路の見直しを行うべきと考えますが、その後、どのような取り組みをされているのか、お聞かせください。

○議長 磯永優二君

都市住宅課長、答弁。

○都市住宅課長 向野隆裕君

お答えいたします。都市計画道路であります臨海工業線でございますが、周防灘湾岸線と重なってまいります部分がございます。駅の海側につきましては、平成24年度まで県道宇島港線として25メートル、4車線道路が整備されております。その後、その西側でございますが、三毛門、沓川の所でカーブいたしまして、内陸のほう、宇島・八屋線のほうにつながるようになっております。

今後につきましては、都市計画審議会等を開きまして、臨海工業線と整合性を図るような計画等を検討してまいりたいと考えております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

課長、いま申し上げたとおり、振興会議等の計画と違うということは、非常に無理があつておかしいんじゃないかと思っておりますので、一刻も早い計画の見直し等をしたほうがいいんじゃないかと思っておりますけれど、もう1回お考えを。

○議長 磯永優二君

副市長、答弁。

○副市長 榎本義憲君

議員の御指摘のとおりだと思います。早速、内部で協議をし、都市計画審議会等を開いて、国県あるいはいろんな期成会等の関連性がもてるような計画づくりをしていきたいと思っております。以上でございます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

ぜひ早急をお願いしたいと思います。そうしなければ協議の中でも、こういうふうな違いがあれば、また遅れるというようなことも考えられますので、ぜひお願いしたいと思います。

次に、吉富町が、聞くところによりますと、非常にこの湾岸道路、臨海工業線の道路に力を入れていると聞いていますけども、吉富町と連携を組んで、国や県に要望してみてもどうでしょうか。

○議長 磯永優二君

副市長、答弁。

○副市長 榎本義憲君

この湾岸道路につきましては、吉富町の町長さんも非常に熱心でございます。地域の交通量の緩和、そしてまたいろんな企業とも北九州空港との連携、その他を考えたときに、積極的に動かれておりますので、豊前市も市長とよく相談して、積極的に動いていくよう

に取り組みたいと思います。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

ぜひ隣町でありますので、連携を組んで、いち早い設置に向けて頑張ってもらいたいと思います。

そして、それが全線が無理ならば、この計画道路は能徳工業団地の進入路の水没対策になるので、明神のほうから用地買収を行い、その間だけでも早くつなげてほしいと思いますけれども、どうお考えですか。

○議長 磯永優二君

副市長、答弁。

○副市長 榎本義憲君

能徳工業団地の水没問題は、非常に能徳の会社の方々にとっても、大変な御迷惑をお掛けいたしております。そういった解消においても、早急に、この湾岸道路の必要性が分かりますので、地権者もありますけれども、よく御相談し、八屋地域の部分でも早く解決と言いますか、道路が出来ますよう、一生懸命動きたいと思います。以上でございます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

ぜひ1日でも早くつながるよう、執行部の今後の取り組みに期待いたしまして、次の質問に移らせていただきます。

次は、前日も、黒江議員、鈴木議員からも質問がありましたが、し尿処理施設についての質問を行います。前日と多少ダブルところがあるかも知れませんが、そのときは御了解をお願いしたいと思います。

平成28年4月8日付けの朝日新聞で、みやこ町は平成30年3月末で豊前広域環境施設組合を脱退すると報道が出されました。その理由として、同組合の処理方法に関して、液肥や下水道につなぐといった様々な方式が示されるなど、行き先が見えないところもあったと、これは新聞のコピーがありますけれども、そういうふうに乗っています。

同組合の中で、組合長の市長、思い付きではなく、構成団体にとって最善な施策を模索したのか、まずお尋ねいたします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

し尿処理の施設更新にあたりまして、私の時代になりましてから、方向転換ということ

がございました。いま言われましたように、液肥化、そして公共下水への流し込みと、常に市民や市の財政などを勘案し、市の利益になるように、それを最優先に判断したところでございます。

ただ、地元を含めて地域の了解、そういうものが伴わない、議会の皆さんもそうですが、そういう御了解をいただけなかったということから、財政的にも厳しい状況がますますはっきりしてきたところでございます。

負担の少ない処理の仕方は、どうあるべきなのか。それを模索した結果、公共下水道へ、という判断をさせていただいたところでございます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

つなぎ込みということで、最終的にそういう結果になったということではありますが、その中で、その一つの施策といたしまして、私は、吉富町、上毛町が建て替え時期に来ていようなので、2町と一緒に出来るように協議したほうがいいんじゃないかと思えますけれども、市長、どう思われますか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

市や町、基礎自治体にとりまして、住民の公衆衛生、そういう面から、し尿などの処理につきましては、毎日のことでございます。身近なことでございます。きちっと処理をする、それが行政の大きな務めでございます。

そういう中にありまして、単一でやるよりも、周辺の自治体と条件が合えば一緒に取り組んでいくというのは、効率的に処理ができる、それに条件、国などの補助システム制度を利用できる可能性もありますので、そういうメリットも多い制度だと認識しております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

市長、吉富町、上毛町と一緒にするのがいいんじゃないかというふうに、いま答弁されましたけれども、それでお尋ねいたします。平成27年11月20日の同組合の臨時会の中で、吉富町、上毛町との加入について、組合長自らが出向き、お願いする、と決議がなされていますが、公式に出向き、お願いしたのか、まずお尋ねいたします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

その他の、し尿処理以外の問題につきましても、吉富、上毛の町長さんとは、よくお会いすることがございます。折に触れて、その話をしたことはございます。

また公式というのが、どういう場面を言うのか、判断しにくいところもございますが、きちっとした場で申し入れをしたと、一緒にやっていきたいということをした記憶がございます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

市長、やっぱり市長はトップでありますので、公式にというのは、やっぱり向こうの役場、また町長室なりに出向いて、市長と一対一で協議をするとか、そういったのが私は公式ではないかと思えますけれども、そういったのはされましたか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

私からアポイントを取って、町長室に行ってお話をしたことはございません。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

やはり、この組合議会の臨時会においても、そういうふうに決議がなされているんですから、市長、やっぱり出向いて、そこは行くべきことじゃないかと思えます。

そして、また後でちょっと聞きますけど、長寿命化計画は、施設の延命化を図るもので、この計画がなくなることで施設が稼働しなくなった場合、どうお考えでしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

長寿命化計画、20年を迎えた施設が稼働しなくなったというのは、事故その他で稼働出来なくなったということでございますか。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

延命化を図るために長寿命化計画で出されていましてけれども、この計画は、確かもう既になくなっていると、私は存じ上げています。そして今みやこ町が脱退し、豊前市独自になったわけですね。もしこの施設が稼働しなくなった場合、どうお考えですか。

○議長 磯永優二君

施設が古くなって動かなくなったら、どうするかと言ってるんですよ。

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

もちろんメンテナンスをしておりますので、そういうことがないように運転をしていくということになると思います。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

もしもの1つの例として聞いていますが、この施設が本当に稼働しなくなった場合、石橋課長、確か課長の家は公共下水道につないでいますよね。石橋課長、その場合、どうお考えですか。

○議長 磯永優二君

税務課長、答弁。

○税務課長 石橋正昭君

私個人の意見だというふうに受け止めましたが、それでよろしいでしょうか。

(福井議員「はい」の声あり)

それは、大変困ることだと思っております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

ちょっと、突然ですけど、西村課長、課長の所は合併浄化槽だとお聞きしましたけれども、稼働しなくなった場合、どう思われますか。

○議長 磯永優二君

市民課長、答弁。

○市民課長 西村礼子君

毎日のことなので、困ります。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

このように、やっぱりどちらにしても下水道にしても合併浄化槽にしても、やっぱり大変困るわけです。だからこそ一番良いベストな状況で取り組んでもらいたいと思っております。

そして、市長、これは予算の面になりますけれども、万が一、豊前市独自でし尿処理施設を運営するようになると、市の負担が著しく増えると思いますけれども、市長が、経常

収支比率が95.8%で財政運営が赤信号と、市長の部屋で述べておられますけれども、悪化するのではと、財政運営の立場で、財務課長お答えください。

○議長 磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長 諫山喜幸君

そうですね、いま負担が増えることは、非常に厳しいことだと思っております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

そうならば、市の独自事業は行えなくなるんじゃないでしょうか。

○議長 磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長 諫山喜幸君

やりくりはいたしますが、財源的に厳しいことになるとは思っております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

もしですね、こういうふうに単独でやるとなると、この赤字以上になれば、せっかく豊前市の良い施策も単独でやる事業もできなくなってしまうんじゃないかなという心配もされますけれども、その辺、副市長、どうお考えでしょうか。

○議長 磯永優二君

副市長、答弁。

○副市長 榎本義憲君

いま延命化の関係で、万が一、豊前市だけになったとしたときに、運営費が約3億円近く掛かるというようなことをお聞きいたしております。豊前市の自主財源は、税収からいろんなものを引いたとき、約3億円しか残らないというような考え方があります。

そういった意味で、財政運営は非常に困難になってくるというふうに考えています。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

確かにそういう心配もなされます。他の単独事業に影響が出るということは、市民サービスの低下につながるということになります。

市長、この辺をよく御理解して、もう1回答弁をお願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

現在の私たちの豊前市には、公共下水道とし尿処理を1市2町でやる環境施設組合と2つ持っております。年間に公共下水道に26年度、2億5000万円、26年度で同じく環境施設組合で1億3000万円ほど掛かっております。これは何もプラスを生んでいるわけではございません、サービスでございます。公共は違いますけれども。そうなると3億8000万円掛かります。

これを一本化することによって、これ以下の単独であっても、これ以下の金額で抑える、そういう方向で施設整備を推進できると私は思っております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

それ以下というのは、市長、つなぎ込みにした場合はか。それはちゃんとした計算とか見積もりとかを備えての話でしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

専門家に、コンサルタントなどに情報を収集しまして、新たな処理施設を稼働させるよりも、日量4900立方メートル処理できるところを、まだ4割しか使っておりません。ここに投入することで、一括してしたほうが、こっちを初期投資を使って、10年なり、またお金をずっと起債の残高として借金返しをした上に運営費を払っていくよりも、ここに運営費が掛からないような、ごく小さく金額を抑えることによって、こちらのほうで一括処理、能力は十分に持っているわけでございます。入れても6割くらいなものです。

ですから、こっちで一括したほうが経費的には安くなるというふうに情報収集をしているところでございます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

市長はきのう、下水道の処理は10倍と言っておられましたね。きのうの黒江議員の答弁のときに10倍の希釈と、それが私も、ちょっと聞いたところによりますと、これは10倍で済むんかなというような懸念もあります。

例えば、他市になりますけれども、10倍に薄めても色がつくと。色がついた場合、いま豊前市はうみてらすがオープンしたばかりです。そういうふうな体には害がないと聞いていますけれども、非常に見かけも悪く、やっぱりそういうことも懸念されるというこ

とで、これが果たして10倍で済むのかどうかというのも、私も不安があるところであり
ますけども、その辺はどう思いますか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

私の知る限り、少なくとも10倍をすれば、いわゆる水質基準、安全な基準であるとい
うふうに聞いておりますので、色の場合には、もう少しその10倍増やしていく、そうい
う方法をとるということが選択肢としてあると思います。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

10倍、また色がついていないようにするには、まだ水が要るとなった場合、今のタン
クの容量とか、そういうのは間に合うのかなと思ったり、不安もあります。またタンクを
増設するとなれば、また莫大な費用が掛かるんじゃないかなとか、いろんなことが懸念さ
れます。その辺をきちっと、ある程度、見積もりなりを出して模索しないといけないんじ
ゃないかなと思いますが、どうお考えですか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

おっしゃるとおりでございます。やはり経費をどのように抑えていくのか、これは多く
の情報を集めて、最善の選択をしていく、これが務めだと思っております。

こういう方向で、いま情報を収集しているところでございます。しっかりと調査をし、
研究をし、そして市民に負担の掛からない、市財政に負担の少ない選択をしたいと思っ
ております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

ぜひお金が掛からない方向、またある程度、やっぱりこれはストップをかけるわけにい
きませんから、お金は掛かるとは思いますけど、ぜひやってもらいたいと思いますけれど
も、その中でも、やっぱり広域でやるのが、私はベストじゃないかなと思います。

副市長、広域でやることに対して、副市長の見解をお聞かせください。

○議長 磯永優二君

副市長、答弁。

○副市長 榎本義憲君

総合計画の中にも、豊築は一つ、そしてまたいろんな経費を鑑みたときに、いろんな計画書の中で、広域の行政を行うべきだということをはっきりうたっております。今いろいろ御議論いただいておりますけれども、まず組合議会のほうで延命化をやめるという議決をいただき、そして本豊前市議会のほうでも延命化をやめて新しい方法を早急に決定していただくということが、いろんな意味で動きやすくなっていくんではないかなというふうに考えています。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

副市長も広域に賛成ということで、今お話しがありました。市長ですね、まず市長が出向き礼を尽くし、両町長と正式な場で真剣に協議ができるよう、私は最大な努力を払うべきだと思いますけれども、いかがなものでしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

両町長と話をする中で、きちっとした方向性を決めて来てくれと、ある程度固まった状態で来てくれというのもありました。どうだろう、こうだろうという話は、もういいですよ。カチッと決めて、そして議論できるようにしてくれというのもありましたので、そういうことも含めて、その前段の話をするということも含めて、訪問し、説明をしていきたいと思っています。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

市長ですね、以前はまた液肥とか長寿命化とか、いろんな模索があったと思いますけれども、もうこのつなぎ込みということになろうかと思います。いま・・・

○議長 磯永優二君

ならないよ、そんなに勝手に。二人で決めて。議会が承認するわけないよ、そんなのは。

○7番 福井昌文君

そういうことで、まず両町長に出向いて挨拶に行く、そして協議をして決める、取り組むということが私は非常に大事だと思いますけれども、いつ行くとか約束できますか、市長。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

アポイントを取り、時間調整ができるときに、早急にしたいと思います。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

市長、もう行く時期に私は来ていると思いますけれども、今月中に行くとか来月中に行くとか、そういった約束は無理でしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

ですから、いま申し上げましたが、言い方がまずくて申し訳ありません。議会が終了すれば、直ちに行動を起こしたいと思っております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

手遅れにならないように、行ってもらいたいと思います。もし、単独になって、広域にならないときには、市長、責任問題であります。そしてまたいろんな事業が出来ないことになるので、これは豊前市の死活問題にもならないとも限りません。市長、ぜひ一日も早い取り組みを行っていただきたいと思います。

次に、地元の対応についてであります。迷惑施設の所在地である八屋地元六区には、経緯を説明し、相談しているのか。覚書確約書には、構成団体の変更、処理形態の変更等がある場合は、地元六区に必ず相談しなければならない、とありますけれども、地元に向いて説明したのか、まずお尋ねいたします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

地元の皆様には、大変お世話になっております。御迷惑を掛けておる日々でございます。感謝をしているところでございます。

ただ、地元六区の説明を、どのような内容でしていいのか、その我々の意思決定で議会の皆さんの承認を得た上で行くべきではないかと私は思っておりましたので、はっきりした方向性が定まらないのに行って、中途半端な話をしては失礼になるという判断もございました。

ですから正式に、これから、こういうふうな方向でいきたいという、まだ議会承認は得ていないけれども、こういう状況であるという状況説明に、先方があることでありますので、先方の皆さんに相談しながら早急に説明に行きたいと思っております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

市長、この確約書には、構成団体の変更、これは既にみやこ町が脱退すると決まっていますよね、もうこういうのが決まっているんですから、すぐに行くべきじゃないかと思えます。そしてまた、やはりこれは迷惑施設なんですから、受け入れてくれるこの六区には、常時、説明とか状況の報告、相談、連絡ですね、そういうのをしょっちゅうするべきじゃないかと思いますが、市長のお考えを。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

おっしゃるとおりだと思います。早急に説明をさせていただければと思いますので、準備に取り掛かります。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

きょうですね、市長、さっき御存知と思いますけども、依頼書が届いていました。そういうことがないように、早急に行ってもらいたいと思います。もう一回、市長。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

早急に、先方のあることをございますので、アポイントを取れ次第、行ってまいります。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

市長、あなたは2万6000人の住民のトップであります。舵取りだけは、市長、あなたに掛かっています。ぜひトップとして最善の舵を取っていただきたいと思えます。

そして、きちっとした方向性を出していただいたら、見てください、市長、周りに優秀な部下もたくさんいらっしゃいます。そのためにも、広域でやっていただくよう、ぜひ近隣に出向いて、よく協議していただきたいと思いますが、市長、一言決意をお願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

今おっしゃられたように、大切なことをございますので、御指摘いただいたことをしっ

かり受け止めて、行動に移したいと思います。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○7番 福井昌文君

人が生きていく上で、このごみ、し尿、上水、下水という処理施設は、大変大事なことだと思います。だからこそ、近隣の町と手を携え、お互いの住民のために一日も早く、良い施策ができるよう、市長、皆さんにお願いいたしまして、私の一般質問を終わります。

○議長 磯永優二君

福井昌文議員の質問が終わりました。

ここで、議事運営上、暫時休憩いたします。

なお、再開は放送にてお知らせしますが、概ね13時を予定しております。

休憩 11時26分

再開 13時00分

○議長 磯永優二君

休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を続行いたします。

平成豊友会の質問を続けます。鎌田晃二議員。

○8番 鎌田晃二君

平成豊友会に所属しております、公明党の鎌田と申します。

通告書は国土強靱化計画について、市営住宅の諸問題について、市長の市政運営について、広域行政、ということになっておりますけれども、先般、皆さんが、このし尿処理施設の質問をしておりますので、私も最初は市長の市政運営について、この点から質問をしてみたいと思います。

まず、事実確認をしておきます。豊前広域環境施設組合の平成26年1月の資料、循環型社会形成推進地域計画等資料によると、一連の経緯は、このようになります。これは市民も話をしても、全然何のことだか分からないものですから、ちょっと説明をさせていただきます。

し尿処理施設が老朽化し、大規模な補修整備が必要な時期を迎え、平成23年に当時の組合局長と一般財団法人日本環境衛生センターの間で善後策を協議いたしました。即ち、基幹設備のみを更新して、15年程度の延命化を図る長寿命化、もしくは施設をギリギリまで使って全面更新するか、この二択であります。

全面更新の場合、平成19年度の増設投資が無駄になり、議会の理解を得にくいという点もあり、既存施設を最大限に長く引き続き使い続ける長寿命化のほうが、時代にも適しているという考えのもとで、平成23年11月、翌24年2月、5月、9月と、1年近く

にわたって組合と日本環境衛生センターとの間で、長寿命化に必要な環境型社会形成推進基幹的整備改良事業の協議を重ね、9月に当時の組合長に提出をしました。

平成24年12月25日、豊前広域環境施設組合、環境型社会形成推進地域計画の提出について、豊前市、築上町、みやこ町の許可を得ました。実に1年以上にわたる1市2町並びに国の外郭団体との綿密な協議の上に計画を策定し、組合員である1市2町の正式の許可を取り付け、九州地方環境事務所、県環境部廃棄物対策課を窓口として、環境大臣に提出し、正式に受理をされたわけであります。

そして平成25年4月、後藤市長が豊前市長となりました。後藤市長は、広域施設組合の組合長を兼任しましたが、それまでに1年半に及ぶ熟議を経て、正式な許可を得て、環境大臣に提出し、受理された計画について、議論に参加すらしていなかったにもかかわらず、計画を一方向的に廃止に戻しました。

きのうから質問にあります液肥化ということです。そのほうが安価であり、環境にもやさしく、地元農業の振興にもなる。私にも言っていましたね。肥料が安くなるということです。そういう主張に文書をまとめて関係者に配布もしております。

そこで、お聞きをいたします。大事な案件でありますので、誠実な御答弁をお願いいたします。ここまでは間違いございませんでしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

平成23年からの、いわゆる長寿命化を選択するまでの経緯、それは、直接私は伺っておりませんが、そのとおりだと認識しております。

また平成25年4月に私が市長を拝命しましてから、液肥化ということ、まず皆さんに御理解いただきたいという提案をしたことも間違いのないことでございます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

つまり、市長が長寿命化に反対し、液肥化という別方式で推進をしてこられたわけであります。それがですね、延々3年も続き、結果としては、当初は環境型社会形成推進地域計画を共同で申請して、応分の負担もいただくことになっておりました、みやこ町も脱退を表明され、それによって、本来はみやこ町と二分すればよかった投資・運営のコストを豊前市が丸抱えすることになったわけであります。

し尿処理施設の改修というのは、どんな方法を採用するにせよ、数十億円規模の大事業であります。豊前市民にとって、この点は、どう釈明をされるのか、お聞きをいたします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

みやこ町さんが脱退を表明されました。長寿命化を進めれば、そのとおり、今22、23億円という数字になるものを引継ぎ、豊前市が負担するという流れになります。ただ、みやこ町さんが脱退されました理由は、液肥化が、まず受け入れが不可能であるということ、それから豊前市の公共下水道へのつながり、流し込み、これについても、考えさせてほしいという意味で、脱退ということになったんだろうと思います。

私は、そういう丸抱えの負担では大きすぎる負担を、処理能力が1日に4900立方メートルもありながら、26年、平均で2140立方メートルしか使っていない、4割ほどしか使っていない施設。総事業費、約150億円も掛けた施設が十分に使われずに、片方であるという、この現状を鑑み、ここで合体処理するほうが格安になるという判断をしたところでございます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

いま市長が言われました安価という点では、また後でお話をしたいと思います。

このみやこ町さんが脱退をされる、もちろんつなぎ込み、行橋のほうが豊前市よりも近いかもしれません。新聞には1割程度の削減となっていましたけれども、じゃあなぜ今まで脱退しなかったのかと言いますと、それまでの経緯とか信頼関係なんですね。でも市長がきのう答弁されたように、行橋さんの事情ですね、農林水産大臣が大丈夫と言ったもの流すのが悪いというのが私には分からないと。そこのところですね、最近、反省もされているようですけれども、しっかりと広域行政を運営される長としては考えていただきたいということを行っているんですね。

それから、市長がこれだけしつこく本件に拘られたのは、この環境型社会の形成並びに農業振興、これは築上町でもやっているから、豊前市でもやれると思ったんだと思います。あらゆるところで政治生命をかけて私はやるんだ、ということを支持者に話しております、議長も聞いたと言っていましたけれども、この市長の言う、政治生命をかけるという言葉の意味を、具体的にどのようなものか、教えてください。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

私が何度か政治生命をかける、という話をしたことがあると記憶しております。それは、やはり市民のため、同じ税金を使うならば、市民にとって一番いい選択をしなければ、市のため、市民のためにならないという、そこの基本を見失わないという意味で、政治生命

という言葉を使ったと記憶しております。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

普通ですね、政治生命をかけるということは、液肥化が出来なかった場合は、市長を辞するという意味に、普通は取るんですけれど、そこはどうでしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

市民にとって、先ほど申しあげましたように、最善の道。一方で、この議論の中で、実は市の財政、非常に厳しい状況があるというものを、私は認識しました。

財政収支比率、95.8%、120億円の予算の中で、ある意味では投資的に使えるお金が3億円足らず。いざという時のために、このお金をどう使うのか。そういう余地のない財政状況、そこを最前に考えなければならないというふうに認識を新たにしましたので、こっちが最優先であるという認識から、より安価なところを選択すべきだと、そういうのをきちっと市民の皆さんに理解していただかなければならない、という思いで政治生命という言葉を使ってきたというところでございます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

これはですね、安易に、市長、政治生命という言葉で、こういったかたちで責任が取れないのであれば、使うべきじゃないと思います。

もう市長は自分の言葉の重みですね、政治生命をかけるという意味の、そういったことも、うやむやにするというのはおかしいですけれども、言ったことに対して、辞めるでもなく、市民のためにという誤魔化した答弁をされましたけれども、これはもうそういう言葉を発せないほうがいいと思います。市長、どうでしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

私たちみたいな、お互いですが、政治をやるときに、決意の表れとして、政治生命をかけてやるぞというのは、時に発することがあるのではないかと、そういう延長線上にあったのかもしれませんが。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

よく分かりました。市長、本当にこれは自分の言葉に責任を持つという意味では、かなり資質に欠けていると私は思います。一言申し述べておきたいと思います。

それからコストダウンの話を、ちょっといたしますけれども、市長が横やりを入れる前に、正式決定していた長寿命化は投資総額19億円、延ばしに延ばしたものですから、今はもう22億円という、きのうの答弁があつておりましたけれども、その補助率2分の1もあつて、加えてその償還にあたっては交付金も予定されており、実質的に負担額は3分の1という話でしたね。

それで築上町とみやこ町も残留しておつて、その時点で豊前市の負担額は47%、みやこ町と2つになったとしても56%ということで、計算をすれば、みやこ町と一緒にただけとしても、3億6000万円くらいになるんですね。

これは市長にし尿化したらコストが安くなるという話で、私も質問しました。そういう資料を出してくださいと。コストだけじゃなくて、運搬する車も要るでしょうし、そういう計画書を出していただきたいということで、市長にお話しもしたこともあります。したら一目瞭然で、築上町に行ってみてくださいと、私におっしゃいましたよね。そういうかたちで、予算面では議会側が出したものとかなり差があるんですね。

それで、議会側としては、大体投資額は、やはり液肥化のほうが安くて、14億円くらい掛かるだろうと、そういうふうに試算をいたしました。

大体、築上町が参加しないであろうと思いますので、その段階では、分担率が47%から56%と、9ポイント増加されます。補助は最大で3分の1、つまり負担率は3分の2ですから、5.3億円の負担が生じ、さらに補助対象外の液肥輸送車などの追加コストが1億6000万円、議会側としては、大体6億9000万円の負担が見込まれるのではないかと計算したわけですね。ここが確かに見解の相違がありました。

それで、市長に先ほど言いましたように、築上町を見に行ってくれと、一目瞭然だからということでありましたけれども、そこで資料が出て来たんですね。(資料提示あり)これは、平成25年12月の全員協議会に配られた資料であります。これは、液肥化処理方式と現行処理の継続した場合、それから現行方式の延命化をした場合、この3つが出てきました。市長が安価、安価と言う以外の証明書であります。

その中に、私はびっくりしたんですけれども、この液肥化方式の中に、新たに土地の確保が必要と書いているんですね、予算は書いてないんですけれども。じゃこの土地を確保するのか、その土地の購入費が載っていない。それから3分の1の交付金補助の負担金ということでもありますけれども、いま生ごみは補助金が3分の1付きますよね。この時点で、この補助金を貰えるか、確定はしていなかったと思います。

それから、ランニングコストが3700万円となっておりますけれども、例えば農繁期

の時期以外の場合に、液肥が余った場合、それをどう処理するのか、これにもお金が掛かりますよね。タンクに溜めるのか、希釈して流すのか、こういった費用も入っておりません。それから、生ごみの回収費用が50万6000円とあがっておりますけれども、他市に聞くと、年間にこんな金額じゃ出来ないと言われました。

それからもっと驚いたのは、液肥運搬車両購入費、これは利用者が決定した後に協議するとなっている。これは予算としておかしいですよね。分からないことを書いているということですよ。

それから液肥運搬費用が利用者決定後、これも協議するとなっている。それから人件費は、この額の中に含まないと。これはかなり大雑把なやっぱり比較表だと思います。これをもって安価というのは、まだ豊前市が計算したほうが、まだ正確性があるんじゃないかと、私はそのように思います。

それで、この市長の安価になるという、この部分を、ちょっとお聞きしたいんですけども、私どもは、これは納得できる数字じゃないと思っています。

その前に、市長が進められてきた液肥化、肝心の農家の支持を得られなかったわけですが、時間がなかったのかもしれませんが。そういったことで空回りをしたわけでありまして、当時、液肥の実証田事業までおやりになりましたね。そこで税金を使って、また職員を使って、この検証結果の報告というのも議会にないんですけども、これはどういふことでしょうか、あえてしなかったんでしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

確かに2年間、実証試験をやりました。これは県の今は名前が変わりましたでしょうか、改良技術普及センターの指導で、JAも含めて、地元の農家の方の田んぼを提供していただいて、やったわけでございます。

1年目は、いわゆる撒く時期と方法が、いわゆるすき込んでいくやり方ではなくて、水に流すだけで、表面でいってしまいましたので、収量はそれほど上がりませんでした、まずまずの成果であったと思っております。

2年目は最初に元肥をすき込んでやったものですから活着もよく、成長もよく、肥料がほとんど要らなかったにもかかわらず、平均的な飼料米が出来たということでございます。

それは、県のほうから、私は正式ではありませんが、こういう結果でしたという報告は受けた覚えがありますが、報告会を開かなかった理由については、ちょっと私は意識がありませんで、これは議会に報告をしなければならぬ案件かどうかの判断をしなかったんだろうと思っています。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

市長、答弁がしどろもどろになっていきますけれども、これはやるべきでしょ。皆、賛成して、それでは、ちょっとやってみたらどうですかと。皆さん、長寿命化をやりたかったんですけれども、市長が本当に政治生命をかけてやるというんだから、これを先延ばしに構成団体の変更というかたちにしたわけですよ。それなのに、その報告もなされていない。こういうことは、もう絶対にあってはならないことだと思います。

それがもう議会との信用にもなりますから、これはもう指摘しておきます。

○議長 磯永優二君

休憩をとって、資料を今から出させましょうか。

(鎌田議員「ありますか」の声あり)

質問者が望むなら、出させましょうか。

(鎌田議員「あるのならば、資料をどうぞ」の声あり)

ないほうがおかしいでしょ。それは。

農林課長、答弁。

○農林水産課長 生田秋敏君

平成26年度及び平成27年度、豊前市飼料用米低コスト多収技術実習成績の資料があります。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

これはですね、あることと、もちろん見せていただきたいんですけれども、私が言いたいのは、しなかったということなんです。これは絶対にやるべきですよ、議員に対して。そして市長が理想とするべきものを議員に伝える。そのためにはどうしたらいいのか、こうしたらいいのか。時間がどれだけ掛かるのか、そういう信頼関係を築く意味でも、絶対にやらないけませんよ。そこは市長、猛反省してください。

それからコスト面について言います。先ほど言いました液肥化した場合の資料、ものすごく大雑把ないい加減なものであります。

これはですね、大体厳密正確なコスト計算のためには、初期投資だけの比較もだめですよ。ランニングだけの比較もだめです。両者を適切に統合したトータルコストの算出をすべきであります。具体的には、ランニングコストの将来性とか、そういうものをはじき出して、現在価値を算出して、初期投資額に加算して数値を出す、比較するというかたちになると思います。

市長は、本件の最高責任者として、この液肥化を政治生命をかけて取り組まれたわけで

すから、この初期投資とランニングコスト、適正な方法で統合したトータルコスト、これまで検討俎上にのった上での手法について、それぞれ算出して比較がなされたのか。これだけ言っているんだからやっているんだと思うんですけど、こういう大雑把な資料じゃなくて、そうした第三者を介したような、こういうコスト計算をしたのかどうか、それをお聞きいたします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

第三者を介してという意味では、隣の築上町の椎田地区のデータを見せていただきました。それから大木町が一步進んだところをやっております。そういうデータを見せていただきまして、もし豊前市でやる場合には、どうするのか、どうあるのかというデータは出したように記憶しております。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

記憶しておるのであれば、その資料請求を今いたしますので、議長、お願いします。

○議長 磯永優二君

後日、委員会までには、資料を提出するように。

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

その資料と言いましても、ちょっといま出せるかどうか、ちょっと分かりませんが、他の前例、地域と比べてどうだったという試算はした記憶はございます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

いま市長は、第三者ということで話されたときに、築上町と大木町といま言われましたね。名指しをして、そこでデータを見せてもらって計算をしたとおっしゃったんで、その資料があると思いますので、出してくださいと、そのことだけです。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

委員会までに探してみたいと思います。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

ぜひお願いしますね。これは後で作ったようなことのないように。これさえ出来てなかったら、市長が政治生命をかけてやるというような、本当にこれは空ごとになりますから、これはもう責任を持って出していただきたいと思います。

それでは次の質問に移ります。長寿命化計画の予算が付かなくなったわけです。また液肥化というのも不可能になりました。市長は技術的な解決策として、下水にし尿、汚泥を流し込むということを提案しております。

これは、私は心配しているんですよ。私は、最初は安価ということもお聞きしましたし、これは伊良原ダムの責任水量のこともありますので、ああ、市長、これは良いことを考えたなと思いましたが、これがまた液肥化と同じように、コストという面で心配が出て来たので、その質問をさせていただきます。

3月16日の読売新聞で、みやこ町が脱退方針ということで、ここに新聞がありますけれども、市長は下水道につなぐ方式に変更すれば、事業費は約2億円で済むということで、記者会見、これは間違いありません。それで、その根拠になる資料というのが、恐らくこれじゃないかと思うんですね。(資料提示あり)

平成27年12月に全員協議会で配られました、豊前広域環境施設組合からの資料に基づく試算表という、この表だと思います。これには、確かにイニシャルコストが2億円、最大で、と書かれております。

これは、よくランニングコストを比較すると、公共下水道に接続したほうが年間5000万円くらいの有利になるということが載せられております。私たちは、これを見たわけですが、この内訳の中に、これは上水道整備費として、1億5000万円ほど上がっております。それから下水道の整備費に1億3930万円、これは交付金事業で補助率2分の1ということで、さっき、両方で2億9000万円くらいになっていますけれども、市長が言われた2億円くらいに収まるんじゃないかという、恐らくそういう話だったと思います。

これですね、長野県上田市というところがその計画を進めております。し尿前処理下水道放流施設ということで、いま計画をされているわけです。ここの責任者に電話ですけれども、お聞きをいたしました。

初期投資が8億円ということなんですね。これは2億円くらいに収まっていませんよ。それからランニングコストが1億4000万円、1日当たりの処理能力が80キロリットル、もし吉富町、上毛町に入っていただくならば、豊前市、大体7月くらいが74キロリットルくらい使いますよね。ということを経算すれば、100キロリットルを処理能力最大限くらいにもっていかないと、もっとお金が、これは8億円じゃ済まないということですよ。

それから、希釈が17倍ということなんですね。市長がずっと答弁されて10倍とおっしゃっていましたがけれども、豊前市の環境の基準値、水質汚染の基準値、これはよそよりも厳しいですよ。豊前市の現状、水素イオン濃度6.9とか、かなり他の自治体よりも厳しくしております。こういった場合に、10倍じゃ、私はきかないと思います。これは、課長、事務方のほうがよく分かっていると思います。

これですね、上田市の場合は、トラックスケール、また受入室を造って、それから砂を沈殿させて砕いて、そういう溜枡が要るんですね。それからドラムスクリーン、それから一時的に貯留する、し尿を均一化する、そういうタンクも要る。こういったかたちで見ていくと、脱臭室も要りますね、機械がずっとありますけれども、かなりの土地も要りますし、金額的にも、この上田市の場合は8億円くらいをみているということでしたけれども、とても豊前市が2億円で出来るような状況じゃないんで、これは事務方のほうが市長より詳しいと思いますので、上下水道課長、答弁をお願いします。

○議長 磯永優二君

上下水道課長、答弁。

○上下水道課長 谷内英仁君

2億円につきましては、当初の長寿命化に使うし尿処理場を改造ということで2億円が単費でということによって上げております。

また、先ほどの10倍希釈の件でございますが、これはいま現在、うちのし尿処理場に入っている汚泥と生し尿につきまして、計算したところ、BODが基準の600になるにつきましては、10倍ということで、10倍希釈ということを出しております。

それ以上につきましては、あくまでも基準をもっと厳しくするというので、考えられますけれども、今のところ600をいくのは10倍希釈ということでございます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

きのう、課長と打ち合わせでお聞きしたところ、20倍を考えていると、1日で10倍に変わりましたね。そのところはどうか。

○議長 磯永優二君

上下水道課長、答弁。

○上下水道課長 谷内英仁君

20倍というのは、あくまでも公共下水に流入されている、入っている状態が、いま結局し尿以外に雑排水、風呂の水とかが入っていますので、薄くなっております。その部分に近づけていただけるならば、20倍でも送れますよということで。それ以上のことは言っていないんですけど、20倍というのは、そういうことでございます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

なんかあまりよく分からない答弁ですが、この上田市もやはりこういった、早く言えば自然に近いかたちで流すために、これだけのお金が掛かっているわけですよ。17倍。なおかつもっといろいろ紙とかビニールとか、いろいろな物が混ざりますから、そういった部分をきれいに処理すれば10何倍で、もうちょっと抑えられるかも分からないという話はしてありましたけれども、豊前市がやる場合に、そこまでしっかり計算をするべきだと思いますよ。

それから、この計画を今ある施設の駐車場に設置する。駐車場の広さを教えてください。

○議長 磯永優二君

上下水道課長、分からんやろ。分かりますか。

○上下水道課長 谷内英仁君

広さは分かりません。

○議長 磯永優二君

分からん者が答えてもしょうがないやろ。

(上下水道課長「申し訳ありません」の声あり)

環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

駐車場だけの面積というのは、今ちょっと分からないんですけれども、施設全体が1万平米くらいになります。その半分まではいかない面積だと思っておりますけれども、後で正確な数字をお教えしたいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

これはもうできれば、この質問はしたくなかったんですね。いくら駐車場と言っても、地元の承諾も得ていないでしょうし。ただいま聞いた範囲では、1万平米の半分しかないということですね。そうですね。

(生活環境課長、頷く)

もし造るとなれば、ちょっと狭いかもしれない。こういうことでよろしいでしょうか。

○議長 磯永優二君

環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

タンクの容量、数にもよるかと思っておりますけれども、そういうものを含めて、地元の話も

ということも出ましたけれども、今からそういうのも諮って、進めさせていただきたいな
と思っております。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

いま言ったように、本当に希釈して流すというの、かなりいろんな問題を抱えており
ます。それで、いま言いましたように、地元、きょうも要望じゃないんですけれども、回
答に対する不満ということで来ておりましたけれども、やはり地元をもう少し。

組合議会でその質問をしたとき、市長は、ここで組合議会で決まらなければ、そんな話
は地元でできるわけがないじゃないか、という答弁をされました。

もしこれですね、いま現状は、この前の組合議会で、みやこ町さんと築上町の議員は退
席されたわけですね。流会になったわけですよ。この今の長寿命化計画を中止して、流
し込みに切り替えることも現在、棚上げになっているわけですね。どうしようもなくなっ
ているんですよ。

じゃあ、豊前市がそれを単費で修繕しながら、いつ壊れるか分からない莫大な補助金を
貰えずにやっていくのか、これも難しいんですよ。もう八方塞がりになっているんですね。
市長、そこを答弁してください。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

公共下水道へのつなぎ込みにつきましては、まだ正式に承認をいただいておりますの
で、おっしゃるとおり、まだまだこれから努力をしていかなければならないと思ってお
ります。

そこで、どのくらい、それに延びるのかというのは、これからの努力次第でございま
すし、地元の御理解というのは、絶対に必要なところでございますので、しっかりと説明を
させていただき、先ほどの福井議員の質問にもありましたように、地元にもしっかりと経
過の説明を申し上げたいと思っております。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

それで、上下水道課長、大体予算は10億円くらいですか、13億円くらいをみている
んですか。この流し込みに対して、予算的にはどれくらい考えていますか。全くやって
いませんか。

○議長 磯永優二君

副市長、答弁。

○副市長 榎本義憲君

建設費につきましては、まだ我々事務方のほうで幾ら掛かるという算出は非常に難しいわけでございます。そのことについて、コンサルタント等に頼めば、そういった委託費等いろいろ掛かるんで、まだ正式に幾ら掛かるという算出はいたしておりません。ちょっと想定でしかものが言えないんで、正式には分かりません。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

コンサルに相談して、またしてもらって算出する、今は中々宙ぶらりんで、それも難しい。どうするんですか、これは。毎日、し尿は出ているんですよね。そしてこのまま、この流し込みも承諾を組合からしていただけない。なおかつ今の施設はどんどん古くなる。国から3分の2の補助も出ない。これは、豊前市は大変な責任問題ですよ、市長。

これはですね、もう本当に皆さんが思っている以上に、いま大変なことになっていると思います。地元も、きょうは下のテレビで見ているようですけども、場合によっちゃ、今までの市長の回答が遅い、こういった部分で不信感を持っておりますので、反対に回られたら、もうアウトですよ。

そういったことも含めて、市長、これはもし10億円、12億円、ここは8億円掛かるんだから、豊前市も最低でも10億円くらい掛かるんじゃないかと思います。そういった場合に、みやこ町さんと、あのまま長寿命化のときは3億6000万円の設備、今回10億円かそれ以上になると思いますけれども、ランニングコストの面がうまくいけば減る可能性がありますよね。

何十年かでペイができるかもしれません。だけど、現状は八方塞がりという現状なんです。そこをしっかりと認識していただいて、きのうからの答弁で、だいぶ市長も申し訳なかったじゃないけれど、反省の弁を述べております。そういった部分で、やっぱり上毛さん、吉富さんにしっかり頭を下げて行っていただきたい、このように思います。

それから、いま話が出ました。上毛町、吉富町の加入について、お聞きをしたいと思います。

市長はいま言いましたように、昨日の答弁で、吉富町、上毛町の加入の件で、努力不足を認めております。きのうちょっと言われておりました。自分もちょっと努力が足りなかったというような答弁をされました。それでもうあまり言うまいかと思ったんですけども、先ほど午前中の中で、福井議員が質問したときに、正式には1回も出向いていないという答弁がございました。それで、ちょっとお聞きをしたいと思います。

平成26年6月30日に築上町さんが脱退の報告をされております。それで平成26年

8月26日の第5回組合議会の定例会で、もうしっかり、吉富町さん、上毛町さんに対して、加入を前提とした協議を早急に行い、結論を出してください、という意見書が磯永組合議長より提出をされております。

そして資料によりますと、平成26年10月8日、第1回加入協議を豊前市役所応接室で行っております。それから同じく11月25日に第2回加入協議を豊前市役所庁議室で行っております。市長がさっき言いましたように、自分から出向いて正式に行ったことはないという、来てもらったことはあるわけですね。

それで、私たちも、この前、組合のほうの議員になったんですけども、もう心配をしまして、早く吉富町さん、上毛町さんに入るように言ってくれということで、再三お願いをしました。そして平成27年11月20日に組合臨時会がありまして、吉富町さん、上毛町さんに加入協議を平成27年12月中に実施をして、結論を出すようにということで、決議案が採択されております。そして先ほどの答弁ではありませんけれども、結局、行っていないということで、行かなかったんですね。

そして3月28日ですか、みやこ町さんの脱退通知が出てきた。こういう流れになっているんですけども、きのうの答弁では、加入の件で努力不足ということで言われましたけれど、そこをもう一遍、答弁をお願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

吉富町さん、上毛町さんへの働きかけ、27年12月に決議ということだったと思いますが、その辺で、私も実は吉富町長さんと坪根町長さんとお話しをする機会があり、そのときには、まず2町でどうするかを決める。そして2町で、バラバラではなく、一緒にやっっていこうということが、まずこれが決定したと。その先については、まだ何も決まっていない。そして自分たちでやる場合、それからその新しい施設を造る場合、それとも吉富町さんは、公共下水道があるので、うちの公共下水道にもつなげないかということも、いま研究していると。そういうのがあるので、いま返事はできないと、それがありました。

その後にもお会いしたと記憶しておりますが、その後は、まだまだ時間が掛かると、4月になりそうだと、超えるかもしれないというようなお話しでございました。

その後にお話しをしたときには、確か、もう何度も言っておりますので、私の記憶では、どういうふうにするのか、やり方を決めてから来てもらわんと困る、というようなニュアンスを伝えられたと記憶しております。そういう経過で今日までズルズルきたということが、私が認識しているところであります。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

市長、それはそういう言い逃れをされますけれども、横におった副市長、どうですか。積極的に市長から、豊前市が単独で、みやこ町も抜けて大変な状況になる。吉富町、上毛町に言ってくれ、そういうお話はありましたか。

○議長 磯永優二君

副市長、答弁。

○副市長 榎本義憲君

市長と私の話の中では、いろんなことが決まれば、副市長、あなたが2町に行って積極的に話をしてほしいと、そういう話はありません。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

吉富町と上毛町の町長さんと話したときに、中々市長との溝を感じたわけです。やはりみやこ町もそうだったと思うんですけれども、やはり信頼関係というのを日ごろから、市長、やっぱり相手の立場とか、そういう部分を、もうちょっと考えてやっていかなければ、もうこのまま八方塞がりでどうしようもない状況になってしまえば、豊前市としても、これはもう本当にインフラ、一番大事な部分であります。

ここをやっぱり真剣に考えていただかないと困ると思います。もう一度、両町に対しての決意をお願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

やはり市長として、まず第一に、市民の利益になるかどうか、市の将来のためになるかどうか最前提だと私は認識しておりました。特に市の公共下水道に投入するということで、周辺の町長さんたちの理解を得るといえるのは、大変難しいところがございます。

その辺のところを、まず方向が決まってから、手法が決まってから、というふうに認識しておりましたので、溝があるということではなくて、行っても話がきちっと説明できない状況である。そこで組合議会など、また地元についても同じことではありますが、きちっとしたことが言える状況をつくりたいというのが、私の選択が先にそっちのほうにいったということでございます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

中々難しいですね、市長。本当にこういった部分というのは、日ごろからの信頼関係で

あると思いますし、また市長が福井議員の質問の中で、1回も正式にこちらのから行ったことはないということで、もう本当に豊前市は困っているわけですから、そのときは、もう恥を忍んででも、頭をこすりつけてでも、加入してくれと、そういうお願いを、私は行くべきだと思います。

全てが決まってからとかじゃなくて、その状況も話した上で、こういう方向性でいきたいから、どうか協力してくれ、一緒にやろうじゃないかと、こういうかたちの答弁がほしいんですが、どうでしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

福井議員さんなどの質問でも答弁しましたように、今までは途中経過、それがひっくり返るかもしれないというのは、また信頼をなくすのではないか。私の判断で、やはりはっきりしたことを伝えるのが私の立場であるという認識でございました。

ただ、途中経過もまた変わるかもしれないことでも、行って話をしながら、前に進めたほうがいいのではないかとというアドバイスと受け止めて、しっかり取り組んでいきたいと思えます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

ぜひそのようにお願いします。今はもう信頼はゼロですよ、近隣の首長さんから話を聞けば。もう本当に心を入れ替えて、いま市長が答弁されたようなことをやっていていただきたい。細かなことでも相談したり、どうしていくのか相談できるような間柄を、ぜひ築いてほしいと要望いたします。

次に移りたいと思えます。最後にまとめとしまして、市長が政治生命をかけて取り組んだし尿施設というのは、結局的にはいたずらに時間を空費して、無駄なメンテナンス費用、数千万円も余計に空費して、順調にいけば貰えたはずの補助金が貰えなくなって、結局、現状は組合議会で下水道への流し込み、これも承諾が取れないままになっており、地元が不信感を持って反対に回るかもしれない状況になっております。

こうした現状を踏まえて、近隣市町村、いま決意をいただきましたけれども、最後に市長、これはどう切り抜けますか。強い決意で一言お願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

何度も申し上げましたように、市民にとって一番利益になるのはどういうことかという

のが、まず私が判断する基準だと認識しております。

やはり総事業費150億円も掛けた公共下水道が4割ほどしか使われていない現状を見ますと、ここで処理するのが一番市民にとって利益になるという、そういう判断でございます。

そのつなぎ込みに対する費用は、確かに少しは掛かるかもしれませんが、最大限それを削っていく、その努力もし、そしてこのことを皆さんに長い年月掛かると、それでランニングコストの面からいくと、非常に安くなります。トータルとして考えた場合に、確かに補助金を貰ってやった今の施設が、そのとおりであります、トータルとしては、非常に高いものになっている。それと同じ轍を踏まないというのもありました。

そういうものを踏まえて、地元の皆さんに、また両町長さんに周りの皆さんに、このことを理解していただくべく、汗をかいていきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

市長、つなぎ込み、新聞の中には2億円で、という話が出ておりました。しかし今の答弁では、もう少しは掛かるかもしれないけれども、ランニングコスト的には、将来うまくやれば削減できるという話でございました。

これは議会における市長の一言一句はインターネットで中継されておりますし、残ります。この議会といたしましても、このことを調査特別委員会を設けて、設置して、そういうことも視野に入れながら、このインフラの部分を検証、精査をしていきたいと思えます。

それでは、次の質問に移ります。

順番が前後しましたけれども、市長の市政運営についてということで、うみてらす豊前ということを通告しておりますので、ちょっと質問をいたします。

このうみてらす豊前、今から頑張ってやらなければいけないんですよ。いろんな部分、質問された方もいらっしゃいますけれども、この詳細設計や工事設計というのは、綜設計事務所、アスク設計事務所とかたちで、入札でしておるんですけども、この基本設計をした昭和設計というのは、どういった企業で、またそこに随意契約で基本計画だけをされておりますけれども、これはどういった経緯で、ここに決めたんでしょうか。

○議長 磯永優二君

農林課長、答弁。

○農林水産課長 生田秋敏君

昭和設計の契約は随意契約となっていて、当初、うみてらす豊前は、年内のオープンを目指して、平成27年12月竣工のためには、今年度中に基本設計を終える必要があることから、早急な発注が必要なため、随意契約を実施したものであります。

なお、昭和設計という会社がどんな会社かというのは、ちょっと私のほうは承知しておりません。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

びっくりしました。承知もしていない所に頼むんですね。よく分かりませんが、代わられてすぐということもあるのかも分かりませんが、引継ぎをしていただきたいと思います。市長は御存知でしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

何度かお会いしたことがございます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

こういった部分の、やっぱり職員の方に、こうこうこういうこの設計に任せれば、基本設計は今までの実績があるから。こういう所を使ったらどうかと、先ほど言いました本年度中に発注しなければ間に合わない、何でそんなぎりぎりにしたのかという疑問も浮かんできますし、市長のよく知っている所というのを、今お聞きしましたけれども、そうすると、何かちょっと胡散臭い部分も何となく浮かんでくる。

要らぬ誤解を生みますので、そういった面での透明性とか、この企業はこういった設計には長けているから、ここを使うんだと。これはもう職員にしっかり言ってほしいと思います。市長、どうでしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

何か思わぬ質問でありまして、私も戸惑っております。この件につきましては、当時の担当課長から、ここを使いたいかどうかという相談があったことは記憶しております。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

じゃあ、市長はこの件に、ここを使えということは、全くないということですね。

(市長、頷く)

分かりました。それを先に課長、言ってくれば良いんです。分からないとか言うから、

こういうことになるんです。よろしいでしょうか。

(農林水産課長、頷く)

それから、市長、これはオープニング前に会食をされていますね。そのことについて、ちょっとお聞きをいたします。

資料をいただいた中には、会議名として、平成28年度福岡県京築農業振興協議会理事会ということで、市長はじめ近隣の首長さんが集まっておられます。9名ということです。これは平成28年度福岡県、この理事会を4月25日月曜日の午後4時より開催することが決定して、27年度事業報告及び決算及び平成28年度事業計画並びに予算を審議するというので、当初は豊前の宇島豊築丸漁業食堂で行う予定だったんですけれども、うみてらす豊前が概ね完成するので、その披露を兼ねて指定管理者である豊築漁業協同組合と事務局が協議して、4月22日に、うみてらす豊前に変更したということで、これは間違いはないでしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

確かに、うみてらす豊前に場所をつくりました、という事務局からの報告は受けた記憶があります。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

このオープニング前の会食というのは、まだ譲渡が終わっていない段階だと思うんですけれども、市長、そこら辺は、どうでしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

この施設は、もともと3月いっぱいには造りたいというのを目指したところではありますが、諸般の事情から4月にずれ込んだ。4月下旬になって出来上がったけれども、オープニングは連休後に、また魚の獲れる、休漁期を終わった後にということで、6月に延びそうだというところでもございました。

京築農業振興協議会は、私が会長しております、京築の吉富町を除く2市4町が構成団体でございます。その首長さん、市長さん・町長さんたちがメンバーでございますし、県の農林事務所の担当課長さんたちがメンバーだったと、それに市役所の職員がメンバーだったと思います。

それで年間の計画をしていく総会がありました。そこでその総会の場所として、ぜひ市

長さん、町長さんに、こういう施設が出来るということを披露したいという思いがあったんだらうと思いますが、事務局のほうの提案でありましたので、私はそのまま乗ってしまったところがございます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

譲渡前に使用するといことは、大変問題であります。またこの時期に何かしら事故等が遭った場合は責任問題として、鍵を預かっている、その業者になります。そういった意味で、これは重大な、これはもう傲慢さと言ったらおかしいんですが、こういうことを使っちゃいけないと思います。

いま市長の答弁によりますと、市長がこの施設を使うといった意味ではないと答弁されましたね。市長が使えるということを命令したわけじゃないんですね。それをちょっと確認したいと思います。担当課。

○議長 磯永優二君

農林水産課長、答弁。

○農林水産課長 生田秋敏君

事務局長と豊築漁業組合のほうが協議したと聞いています。

○議長 磯永優二君

責任転嫁をしちゃいかんよ。誰が決めたんかね。

暫時、休憩。

休憩 13時58分

再開 14時15分

○議長 磯永優二君

休憩前に引き続き、会議を開きます。

平成豊友会、鎌田議員の一般質問を続行します。鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

先ほど質問した答弁を、もう一度聞きたいんですが。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

先ほどの答弁の中ですが、3月いっぱい完成しております。4月から豊前市のほうになっております。ただ微調整もまだあったというのは確認できております。

そうした中で、私は、市長さん、町長さんたち、この界限の方々が一堂に会することは、あまりないものですから、そういう機会にあの施設を見てもらいたいなという気持ちはあ

りました。しかし、私が事務局に命じて、うみてらすを舞台にということは、全く考えておりませんでした。事務局のほうで動いてくれまして、ああ、それは将来、周辺の漁協からも魚が集まってくれる、その漁協に最も近い所にいる首長さんたちだから、早く理解してもらえるのはいいですね、ということで4月25日でしたが、あの場所を借りて総会をさせていただいたという次第でございます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

3月いっぱいという話がありましたけれども、実際には終わっていなかったわけですよ。鍵の管理も業者がしていたということですので、これは先ほど言いましたように、誰が使用の許可を出したのか。この肝いりで始めた、うみてらす豊前は市長の発案ですね。まだ譲渡が終わっていないというのは御存知だったと思います。鍵も業者が管理をしていたというのは御存知だと思います。

これは使うときに、何も違和感もなく、そのときに会食をしたんでしょうか。それとも、ここを使ったら、まだ譲渡が終わってない、引き渡しが終わってないんだから、使うべきじゃないんじゃないかというのが、普通、私たちはそう思うんですけど、市長、それは思わなかったんでしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

申し訳ありません。認識として、私は先ほど申し上げましたように、素晴らしい施設が皆さんのお陰で出来ましたので、こういう場所を、こんな所があるんだ、そして地域全体の豊前海を囲む関係する市町、そこのトップの皆さんに認識をしていただいて、こういう所に魚を送っていただけるような環境を築きたい、というのが頭の中にあつたことは確かですが、まだ業者さんが鍵を持っている段階で、使っていけないという認識に欠けておりました。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

ぜひ、認識をしていただきたいと思います。

それで先ほどの質問。誰がこの許可をしたのか。ここで使っていないよという許可をしたのか、最後にお聞きをいたします。

○議長 磯永優二君

農林課長、答弁。

○農林水産課長 生田秋敏君

福岡県京築農業振興協議会事務局長が漁協のほうと協議し、決めました。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

事務局長と漁協でということになりますね。これはもうここが、まだ譲渡が終わっていない部分を使ったという意味で、間違いない、今はもうネットで流れていますから、この方々も聞けば、恐らく知らなくてでしょうね、まだ譲渡が終わっていない。そういう面も含めて、また先ほど言いました調査特別委員会等で設置するならば調べていきたいと、このように思います。

私の質問時間がなくなってきたんで、次の質問をしたいと思います。

続きまして、後の質問は、少し急いで端折っていききたいと思います。国土強靱化計画について、質問をいたします。

東日本大震災の教訓を機に、平成25年12月に公布施行された国土強靱化計画基本法では、都道府県または市町村は、国土強靱化地域計画を定めることができる、と明記されております。しかし、平成28年4月22日現在の策定状況ということで、地方公共団体は、31都道府県、16市町村、または地域計画を策定中の地方公共団体は、16都府県で27市町村となっております。

これは福岡県もいま策定中でございますよね。それで、これは豊前市として、いま建設業界もかなり疲弊しております。仕事がないということをお聞きしております。ぜひこの計画を立てて、いろんな事業を、お金がないですから補助金に乗せてしたらどうかと、そういうことをお聞きします。

豊前市は、この策定についてどのようにお考えか、まずお聞きをいたします。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

強靱化計画について、お答えをいたします。いま議員さんから御紹介があったように、平成25年12月に強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法が施行されまして、平成26年6月に国土強靱化基本計画が閣議決定されております。

基本計画は、防災・減災等に資する国土強靱化基本法を受け、国土の健康診断とも言うべき脆弱性評価を踏まえて策定され、防災・減災対策の推進に関する国の各種計画の指針となるものでございます。南海トラフ巨大地震や首都直下地震などを想定し、あらゆる事態に対応できる強靱な国家づくりを総合的に推進するものとしております。

福岡県におきましては、この基本計画を踏まえ、福岡県地域強靱化基本計画が本年3月に策定されております。この計画は、基本法第13条に基づく、国土強靱化地域計画でございます。国土強靱化に係る福岡県の他の計画等の指針となるもので、福岡県の様々な分野の計画等よりも上位に位置づけられるということでございます。

豊前市では、昨年度から地域防災計画の見直しを作業中でございます。また福岡県におきましては、今年3月にこの強靱化計画が策定されたところでございます。市町村計画につきましては、現在、努力規定ではありますが、必要でかつ重要な計画であり、検討課題だと認識しているところでございます。

3月に策定されました県計画の内容等、十分研究、検討し、努力していきたいと考えているところでございます。以上です。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

努力するということで、豊前市はまだ作るかどうか分からないということですね。

それで、例えばこの強靱化計画を策定して補助金を貰って、防災無線とか、これはかなりあるんじゃないでしょうか、2分の1くらい出るんじゃないでしょうか。市長も市報で、もうそろそろ戸別受信機をという話も市報の中に書かれておりました。

どうですか、課長、こういうのは防災無線、計画にのせてやったほうが有利なところがあるんですか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えします。防災無線につきましては、国のほうも全国の自治体の状況が豊前市とほぼ同じような状況でございます。中々同報系のラップ型では聞こえにくいという状況で、いろいろな手当てを行っております。今年度、27年度につきましては、特別交付税で7割を財政支援する、また起債等で100%充当して7割交付税措置するという、新たな制度も打ち出してきております。

ここに強靱化計画に示されております各省庁の補助金については、この強靱化計画を策定すれば、パッケージでいろいろな各省庁の補助金が活用できるというような計画でございます。この中にも総務省の無線システム普及支援事業という防災行政無線の移動系に係る補助金が示されております。これについては、戸別受信機と、現在、別物と考えておりますが、内容について、再度、総務省のほうに問い合わせ、把握したいと考えております。以上です。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

ぜひ、検討してみてください。どっちがいいか。よろしくお願いします。

また能徳工業団地へのアクセス道路ですね、ここはよく水没するんですけども、こういった部分でも、何か特典がないかどうか、こういうのも研究していただきたいと思います。

また梅雨時期に入って、池等、また河川の氾濫等も考えられますので、こういった強靱化計画にのせての工事、市としてやらなければならない場所があると思うんで、これもぜひ検討をしていただきたいと思います。総務課長、どうですか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

努力していきたいと考えております。まだ十分、県の計画が示されたばかりで、私どもも中身を十分把握していないような状況でございます、それらを十分研究させていただいて、努力させていただきたいと思います。以上です。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

分かりました。まだ策定は少ないんですよ。皆さん、中々取り組まないから。やっぱり先にやったほうがいいと思いますよ。よろしくお願いいたします。

続きまして、市営住宅の諸問題ということで通告をさせていただいております。

私たち議員には、様々な苦情、また要望等が入りますけれども、この市営住宅のトラブル、いろいろな部分、課長も聞かれていると思うんですが、ある団地では、暴力団が入っているんじゃないかというような問い合わせもありました。また、入れ墨をした人が肩を出して住んでいる、そういったこともお聞きをしました。

そういった場合の対処といいますか、市営住宅に入るときに、そういった下調べと申しますか、検証は、どの程度までされているのかお聞きいたします。

○議長 磯永優二君

都市住宅課長、答弁。

○都市住宅課長 向野隆裕君

市営住宅の入居の際の暴力団員の確認等でございますが、これにつきましては、現在、警察のほうと協定を結んでおります。

申し込みがあった際、また既に入居されている方で同居等の申し出があった場合、また入居の方が家庭の事情とかで、次の方に、子どもさんとか他の方に入居を受け継ぐ際、そういった場合に、氏名等、全て名簿を警察のほうに提出いたしまして、暴力団員として

登録されていないかどうかの確認をいただきまして、していないことを確認して契約等、また許可等をしているところでございます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

それでは、一時、そういった相談がありまして、前課長のほうに相談に行ったときに、その方が暴力団に入っているのか、席があるのかないのか、そこの部分が分からなくて、もし入っているのであれば、市としても退去していただくという措置が取れるんでありますけども、そこを警察のほうにお聞きをしに行ったわけですが、そのときは教えられないといことで駄目だったんですね。

それは入居前だと教えてくれるんですか。入居前だと教えていただけて、途中からそういったことで問い合わせをしたときには教えられない。これは、対応が違っているんですけど、そのところはどうか解釈したらいいんでしょうか。

○議長 磯永優二君

都市住宅課長、答弁。

○都市住宅課長 向野隆裕君

そういった契約の際の照会、それからそういった同居とかする場合の照会、そういったものはきちんと照会をした場合に返答が来るようになっています。ただそれが名簿等に載っていない方であると、公営住宅の入居者でないということで、照会の回答ができないんじゃないかと思います。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

ちょっとよく分からないんですけども、実際に住まれている方で、この方が暴力団なのか、そうでないのかということを知ったわけですね。それでそのことに対して、警察は、最初は答えてくれそうにあったんですけども、答えてくれなかったわけですね。これは、木部課長のときだったですかね。そういった経緯があります。

それで、入居の際には教えていただけて、もう入った後、そういう近隣トラブルがあった場合には、教えていただけなかったという差があったものですから、それは担当される警察の方によって違うのか、そのところは、しっかり市のほうで一遍、確認してもらっていいですか。

○議長 磯永優二君

副市長、答弁。

○副市長 榎本義憲君

暴力団関係の方々が、例えば偽名を使われて団地に入居するということが想定されます。そのようなことが起こりましたときには、警察関係とよく相談して、行政のほうが動けば、警察のほうもはっきり教えていただければと思いますので、そういった方々に対しては、それなりの法に照らし合わせて対処を今後していきたいと思います。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

じゃあ暴力団員だと分かったときには、退去命令というかたちで、市がするということですね。

それで、例えば、入れ墨を入れた方が隣に住んでいらっしやって、怖いということで市営住宅を出た方もいらっしやるように聞きます。そういった場合の市としての対応というのは、どのようにするんですか。いま言ったように確認もするんでしょうけれども、現実的に、今そういう相談が2件ほど入っております。そういった場合に、市としての対応ですね。その方に確認に行くのか、どうするのか。そういう迷惑行為をやめていただきたいと注意をしに行くのか。副市長。

○議長 磯永優二君

副市長、答弁。

○副市長 榎本義憲君

当然、団地に入居していて、近隣に迷惑を掛けたときには、豊前市住宅管理条例があります。そういった法律に基づいて、住宅の管理人、そしてまた職員、そしてまた我々、警察、そういった部分で動いていくことになると思います。

ただ、隣に入居している人が、そういった迷惑を掛けないで、ただ入れ墨をしているというのは、そのことで暴力団員じゃなければ対応ができないこともあるかもしれませんが、入れ墨をポツと出して見せたりしたときには、そういった迷惑を掛けるので、そういった方々については、行政が対応するべきだと思っております。以上です。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

しっかりそういう苦情が入った場合は、お願いをいたしたいと思います。

それから、市営住宅の移動というのは、これはできないようになっていると思います。特例としまして、高齢になって膝が悪い、四郎丸団地等で、もう上にあがるのは大変ですよ。そういう場合は交代もあり得るということでした。

それで、そういった部分の、例えば某団地では、子どもさんがたくさんいらっしやる方が2階に来て、お話したと思いますけれども、もう毎日ドタバタで、下から棒で突っつ

くと、異常な行動に、段々エスカレートしないとも限りませんので、こういった場合、子どもさんがたくさんいらっしゃる場合は、例えば1階の角部屋を優先的に住んでいただくとか、それとか交代をしていただく、こういうことは駄目なんですか。

○議長 磯永優二君

都市住宅課長、答弁。

○都市住宅課長 向野隆裕君

先ほど議員からもおっしゃいましたように、市営住宅から市営住宅への移動というものは、建て替え等、特別な理由がない限りは、認められないところでございます。

そういった苦情等、時々入りますけれども、出来るだけ現地に赴きまして、双方のそういった苦情等を聞きまして、調整して、出来るだけ双方、迷惑が掛からないような生活の仕方をお願いしているというような状況でございます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

角とかかわれないかをお聞きしているんです。そういった苦情を、例えばそういうことで不眠症になるとか、いろんな体に変調をきたすということで、例えばお子さんのいらっしゃる方は、端が空いたらそこに2階からかわっていただくとか、いろんな対処ができないかどうかを、今お聞きしています。

○議長 磯永優二君

副市長、答弁。

○副市長 榎本義憲君

当然、入居していて、隣の方に迷惑を掛ける、そういった人がいらっしゃれば、先ほど課長が答弁したように、行政指導で静かにしていただくようお願いをするべきだと思いますが、どうしても言うことを聞いていただけない、そういった方については、もしも下の階に空き家が出たときには、動いていただけませんかという取り計らいという、そういうことも条例に照らし合わせて行っていきたいと思えます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

ぜひ条例ということで、市長が判断する部分がありますので、そこで検討していただきたい。そういう入居する場合も配慮していただいて、入った後も配慮していただく。ぜひよろしくお願いいたします。子どもさんが悪いわけじゃないんですよ。子どもさんは騒ぐのが当たり前ですから。そういうことでお願いいたします。

騒音問題は、今もう古くなっておりますけれども、上町のほうの古いほうですね、あそ

こはバイクでいつも子どもさんが夜中にブンブン回すということで苦情が入っておりますけれども、これもですね、やっぱりその家庭の方はパニック障害とか、いろいろあるんですね。そういった場合も、例えばこの、現に公営住宅に入居している者、同居者の人数に増減があったこと、または既存入居者、もしくは同居者が加齢、病気等によって日常生活の身体機能上の制限を受ける者となったことにより、市長が入居者を募集しようとしている市営住宅の当該、入居が適切であるときには、かえてもいいということになっているんですけれども、これは最近相談があった方も、こういうのを適用できるんじゃないかと思っておりますので、ぜひまた検討をお願いいたします。

それでは、市営住宅のほうは、これで終わりたいと思います。

あと広域行政についてということが残っております。広域行政についてということで、京築の広域消防本部のことについて、お聞きをいたします。処分をされた方が3名ということで、報道等もあってございましたけれども、最終的には1億円、1500万円くらいは別として、何に使われたというのは、結局、市長、これは把握できなかったんですよ、結局は。どうでしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

消防の業務上横領事件、使い込み事件につきましては、使途不明金が1億円以上に上がるということで、市民の皆さんには大変心配をかけ、御迷惑を掛けている、消防を管理する立場におりました組合長として、本当にお詫びを申し上げたいと思います。

やはり一人の者が長きにわたりお金を扱っていた、その過程でやはり隙間が出来、ああいう犯罪がズルズルと起こされてしまった。やはり個人の問題としてだけではなく、チェックする体制を含めて、反省しているところでございます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

最終的には、これだけのお金、市民、町民の税金が何に使われたか分からない。いろいろ市民の方からも言われるわけですがけれども、これは後藤市長、私も一般質問したときに、今後このようなことがないように、しっかり手を打っていただきたいということで申し上げたと思いますが、市長は消防管理者をお辞めになったということで責任を取られたと思うんですけれども、これは実際にどのような手を打たれて、今後、こういうことがないように手を打たれたのか、ちょっとお聞きをしたいと思います。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

管理面で、一人の者に預金通帳など、また印鑑も、ある意味では伝票ですね、そういうものも一人に全部集中してしまっていたというところから、やはり組織としての第一段階でのチェックが出来ていない。それから市のほうに会計管理者がおりますが、そこも言われるままに、長い間やっていたものですから、交代する会計管理者のほうが、前からこうやっていたんだらうと思わせられるような言動で、のってしまったというところもあったと思います。

いずれにしても、それを年に何回もチェックする監査機能も欠けていたということで、いま申し上げました、そのような点について、管理体制、そして会計管理者の印鑑の打ち方など、また監査体制、それをしっかりと見直すようにということで、整備をし直し、また特別調査委員会を立ち上げて専門家の先生にも入っていただいて、助言をいただき、体制を立て直すというところにいきましたので、けじめを付けさせていただくという意味で、1年になろうとしておりましたので、私も責任を取らせていただいたという次第でございます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

前回、質問したときに、外部から監査、外部監査ですね、公認会計士等を入れたらどうかという、これもいま一緒に検討されているということで、よろしいでしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

いま特別調査委員会の中におられます公認会計士の先生や弁護士の先生、そういう方々にも、そのことは伝わっておりますので、善処されると認識しております。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

それですね、市民はああそうか、税金が何に使ったか分からないというかたちで、まだかなり不満を持っている方もたくさんいらっしゃいます。それは当たり前の話ですよ。

それで、3名処分をされていますけれども、この3名は、ただ、いま現職だったから処分の対象になったと思うんですよね。これは過去40年使い込みをしていたときの消防長と次長等、いらっしゃるとは思いますけれども、こういった方々には責任はないんでしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

責任という意味では、私は、いつからこの犯罪がスタートしたのかということが、まず第一義ではないかと思っております。それを我々が当初、今や犯行に及んだ個人でございますが、その人から聞いた範囲では、いつからという言質は取れませんでした。本人は、喋っておりません。検察の司法の手によって、それが出てくるのかと期待しておるところでございます、それが分かり次第、そこからというのがあります。

もう一方で、その犯罪を裏付ける資料というのは、もう10年ほどしか資料は残っておりません。裏付けるものがないと中々難しいところがございますが、刑事事件がいま業務上横領事件として公判が開かれております。もう一方で民事裁判という民事で被害を弁済していただく手続きというのも、いま準備をしているというところがございます。

○議長 磯永優二君

鎌田議員。

○8番 鎌田晃二君

市民は、中々納得できないことであります。いつからか分からないということで、本当に過去の消防長も処分の対象にするべきだと私は思いますし、また、市民としてはやるせない、どうしようもない、本当にどうしたらいいのか分からない、そういう部分の話が、私どもに入ってくるわけであります。

変な言い方をすれば、いま現職であった方が可哀想なくらいですよ。過去からずっとあったことを、いま現職の方が処分されたということです。

そういった意味でも、本当にこれは猛反省して、広域行政は、これだけじゃありませんので、他にもないのかどうかしっかり検証していただいて、こういったことが二度とないようにすることが市民に対する奉公と言いますか、それは務めだと思います。そういったことで、この広域行政については質問を終わります。

あと7分ございますけれども、市長には、質問の中で、大変厳しいことも申ししてきました。見解が違って、御立腹されたこともあると思いますけれども、最後に名古屋市長の市政運営を任期1年を残して同日で解職された、岩城正光副市長の言葉を、市長にしっかり噛みしめてもらいたいということで、ここで取り上げます。

この岩城正光副市長は、旧日本海軍連合艦隊司令長官山本五十六の言葉を引用しまして、やってみせ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かじ。話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば人は育たず。やっている姿を感謝で見守って信頼せねば、人は実らぬ、ということで、しっかり身の回りの職員も含めた人たちと、また近隣の首長ともしっかり手を携えて、信頼関係を築いていただきたいということを申し上げまして、質問を終わらせていただきます。

○議長 磯永優二君

鎌田晃二議員の質問が終わりました。

以上で、平成豊友会の一般質問を終了いたします。

ここで、議事運営上、暫時休憩いたしますが、再開は放送にてお知らせいたします。

休憩 14時47分

再開 15時00分

○副議長 尾澤満治君

休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を続行いたします。

爪丸裕和議員の一般質問を行います。爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

それでは、本日、最後の質問ということになると思います。発言通告に従いまして、指定管理と補助金についてということにつきまして、質問をさせていただきます。

平成15年9月2日に指定管理者制度が施行され、13年が経とうとしているわけであり、本市におきましては、御承知のように、先日オープンいたしました、うみてらすを含め、11の施設が指定管理という運びになっているわけであり、

このような中で、今議会一般質問におきまして、3つの施設につきまして、今の状況等について、質問をさせていただきたいと思っております。

まず、1点目につきましては、ト仙の郷についてであります。管理者が交代してから、恐らくこれは1年近くになるのではないかとというふうに記憶をいたしているところであります。このト仙につきましての現在の入り込み客数、そしてまたその経営状況等について、お尋ねいたします。

○副議長 尾澤満治君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 中川裕次君

ト仙の郷につきましては、今年4月の入り込み客は、入浴客が3790人で、5月が5027名で、昨年度に比べて4月で800名、5月で約1000名減になっております。やはり大震災等の影響、また東九州等の影響により減少傾向でございます。

また、経営状況につきまして、27年度の実績は赤字決算というところでございます。ただ、今年度につきましては、昨年度に比較して、4月、5月のほうは、入浴客が減少しながらも、収入のほうはやや上向きという報告を受けたところでございます。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

4月、5月についての入り込み客数等のいま報告を受けましたが、震災は御承知のよう

に4月14日でありますね。じゃあその以前、昨年夏からその3月までにおきましての、その客数と、その月々の経営の売り上げ等を含めた状況については、どのように把握されていますか。

○副議長 尾澤満治君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 中川裕次君

昨年度につきましては、ちょっとまとまった資料が不在な状況ですので、後ほど報告をさせていただきますと思います。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

それでは、民間の鷹勝といたしましても、これは通常3年くらいでやるものを、確か10年の長期にわたっての契約を締結し、さらにまた自腹と申しますか、自社の資金により改修工事等を行って現在に至っているわけであります。

当然、その経営者の立場からすれば、これはやる以上は投資効果というのを求めてまいるわけでありませぬ。

そこで今後、これはどのような、今からメニューを作るなり、そのような取り組みというようなものを、今後どのように考えられているのか、その辺の連携が取れておるのであれば、お聞かせをいただきたいと思います。

○副議長 尾澤満治君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 中川裕次君

今後の取り組みの方向といたしましては、昨年度、宿泊部門の充実等を図っております。市のほうといたしましては、浴槽等を今年度またリニューアル等を計画しながら、くぼて鷹勝さんのほうといたしましては、レストラン部門の充実を図っていく。くぼて鷹勝としての名物料理、またはト占の郷豊前の特産品等を開発しながら、集客、または収入のアップにつなげていきたいという考えでございます。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

課長がおっしゃられたように、やはり鷹勝さん、もともとこれは割烹ですよね、割烹の鷹勝さんということで、東京の銀座から、確か湯布院のほうにまで出されているというような経緯もあります。

そのような点で、レストラン、そのような食事に力を入れて経営を立て直していくとい

うようなことでしょうか、実際は鷹勝さんにバトンタッチされる前の入り込みの客、要は宿泊等をされていた方々の年齢層、そのような点につきましては、どのように把握されていますか。また地域もできましたらお答えください。どのような所から来られているのか。

○副議長 尾澤満治君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 中川裕次君

求菩提施設運営組合のほうで今年の7月まで運営をされております。宴会等、また立ち寄り客等、主なところにつきましては、かなり高齢者の方が多かったというふうにお伺いしています。また法事等での利用がかなりあった、また同級会等ですね。

地域といたしましては、北九州方面等が非常に多く使っていただいたというふうにお伺いしています。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

もうこれは指定管理で任せた以上は、あまり口出しするのはいかがかとは思いますが、やはり課長、そのような方々に、今日まで支えられてきたという、その実績等があると思います。そのような点、やはり鷹勝さんの経営方針を踏みにじるという意味じゃないんですが、そのような実績等、やはり御配慮いただくように、口添えでもしていただき、今までのお客さんを大切に、新たに鷹勝さん独自の味ということで、レストラン、いま割烹の話も出ましたが、そのようなところから新たな新規のお客さんというものを掘り起こしていくというような経営が大事じゃないかと思います。

それとやはり何と言っても地元ですね、課長。地元のやはり旧の経営陣の方々もおられるでしょうし、やはり地元の協力なくしてト仙の発展は考えられないと思います。その点をしっかりと鷹勝さんのほうにも伝えていただきたいと思います。一言いただきます。

○副議長 尾澤満治君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 中川裕次君

よく連携して、観光PRの中で、道の駅、うみてらす、そしてト仙の郷という、そういう周回の観光の拠点として経営が成り立っていくように支援を行う、または協力を行っていきたいと考えております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

では、ト仙については、よろしく願いいたします。

そして2つ目は、豊前市立の図書館についてであります。図書館につきましては、またこれも指定管理にかわって、4月1日のスタートというようなことでありますので、今の時点で実績を中々出しにくい点もあると思いますが、4月、5月のこのふた月にわたってのやはり先ほどと同様の来館者、そして貸し出しの状況等についてお尋ねいたします。

○副議長 尾澤満治君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 栗焼憲児君

お答えいたします。豊前市立図書館につきましては、本年4月より新たな指定管理者として、一般社団法人豊前図書館研究会を選定して運営を行っているところでございます。

本年度の4月、5月の利用状況につきましては、まず4月の入館者につきましては、1万2324人、これは図書館入り口にセンサーを設置しまして、カウントしているものでございます。貸し出し冊数につきましては、1万3066冊でございます。

また5月につきましては、同様に入館者が1万1328名、それから貸し出し冊数が1万1217冊ということになっております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

この数というのは、昨年度の同月と見たときに、比較していかがなものですか。

○副議長 尾澤満治君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 栗焼憲児君

昨年度の数と比較をいたしますと、入館者につきましては、4月でマイナスの1193名、それから5月につきましては、マイナスの3846名、貸し出し冊数につきましては、4月がプラスの1372冊、5月につきましては、マイナスの1220冊というふうな報告を受けております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

どういう理由か分かりませんが、いずれにしても利用者を増やしていただく努力を重ねていただきたいという点と、先ほど鎌田議員は、市営の団地の中の不適格な方の入居のことを質問されておりました。

同様のことをお尋ねいたしますが、やはり入館者の中でマナーに反する、他のお客さんに迷惑を掛けるといったような点については、どのような報告を受けられていますか。

○副議長 尾澤満治君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 栗焼憲児君

現時点で、毎月月例の報告がまいりますけども、4月、5月の報告の中では、特段そうした報告は受けておりません。ただ図書館の条例がありますので、その中で、そういう迷惑を掛ける方については、注意をした上で館長の権限で退館をさせることができるということになっておりますので、そういう対応をしたいと考えております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

課長は、今年来られたんですか。

(生涯学習課長、頷く)

そうですか、たぶん昨年あったと思うんですが、どのように前任者から引き継ぎをされているのか分かりませんが、その図書館条例に則り、実際に退館させた例があるのかどうか、まずその点はいかがですか。

○副議長 尾澤満治君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 栗焼憲児君

申し訳ありません。その点については、把握をしておりません。また調べて・・・

(教育長、挙手あり)

○副議長 尾澤満治君

教育長、答弁。

○教育長 戸田章君

ただいまの議員の御質問の件ですが、退館させた例はございます。御承知のとおり、内容、中身については、はばかれますので言えませんけれども、非常に迷惑を掛けたというかたちで警察にもお願いしたという事例がございます。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

課長ね、しっかりそのようなことは大事なことから、しっかり引き継いで、そしていま現在、指定管理を受けられている館長の権限において、しっかりとやっぱりやるべきだと思います。ね、教育長、この点をしっかりやっていただきたいと思います。

それと先日のこれは新聞に出ておりましたが、今の豊前市が誕生する以前、またこれは戦前じゃないかと、戦前の築上郡の時代の築上新聞ということで、いま展示されているということで、この議場の中には、教育長、恐らく戦前は失礼だけど、戦中の生まれは教育

長じゃないかと、戦前にお生まれの方はおられないと思いますが。

当時のこのような新聞を、これは築上印刷さんがやられているというような記事がありました。参考までに、これは教育長、入館された経緯がありますか、お答えください。

○副議長 尾澤満治君

教育長、答弁。

○教育長 戸田章君

3階のほうに展示をしております。展示の仕方に少し難があるかなとは思いますが、一応、非常に古い新聞でございますし色あせておりますので、今後の管理が大事になってくるというふうには思っております。以上です。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

私もちょっと昼休みにお邪魔しようかと思ったら、きょう、火曜日は休館日ということ思い出したので。何が言いたいか。やはり入館者を増やす意味で、そのようなやはり企画、アイデア等を今後ますますやり出していきたいということでもあります。

以前やられていたボダイさんですか、それとこれもお聞きしたいんですが、ボダイさんは図書館運営のみならず、いろいろと幅広い事業というのを抱えられていたわけでありませう。そしていま受けられている、ちょっと名称を忘れましたが、同じくNPO法人ですよね。この団体におきましては、他の事業を抱えられているのか、この事業だけであるのか、この辺をちょっとお聞かせください。

○副議長 尾澤満治君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 栗焼憲児君

現在、指定管理を受けております一般社団法人豊前図書館研究会におかれましては、この業務のみの活動というふうに聞いております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

ということで、課長ね、やはりこの事業にだけ専念して、しっかり取り組んでいただきたい。

その上で、今から7月、8月は夏休みに入ります。そうすれば、小学生・中学生の児童生徒のやはり利用というもの、入館者数をもっといま大いに入ってもらいたいような、そのような取り組み、企画等、何か考えているのであれば、お聞かせいただきたいと思っております。

○副議長 尾澤満治君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 栗焼憲児君

夏休み期間中の子どもたちへの読書推進ということで、読書感想文の課題図書、それから指定図書というのがありますけれども、そうしたものの展示会がありますとか、また私も生涯学習課と共催で小学生の読書リーダーの養成講座。これは読書リーダーを養成することで学校に帰って、いろんな読書推進の取り組みをしていただくわけですが、そういう講座。さらにはDVDの中に図書館の中で上映可能なもの、著作権の関係で可能なものがありますので、そうしたものの上映会がありますとか、工作教室等の企画をしているというふうに聞いております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

いずれにしても、そこそこの悪い施設ではないというふうに豊前の施設の中では、この豊前市立図書館は、やはり良いものだという思いが私にはありますので、この辺をしっかりと指定を受けているNPO、先ほど図書館研究会と言われましたか、こちらの方にしっかりと伝えていただき、今後また多くの方々に利用していただけるような施設になっていただくことをお願いをいたします。これはもう結構です。

そして3つ目になりますが、やはり気になるのが道の駅ということになってくると思います。

新聞等に出ておりましたが、やはり5月ですね、4月24日に、御承知のように東九州自動車道の椎田南インター、そして豊前インター等が開通したことに伴い、入り込み客数、そして売り上げともに、私の見た新聞では30数パーセント減というようなことでしたが、実際、そのような数字であるのか、間違いないのか、その点と、その理由。理由は、いま言ったような、それだけが理由なのか。現状、ちょっといま私の新聞で知る限りじゃなしに、執行部が把握している現状をお聞かせいただきたいと思います。

○副議長 尾澤満治君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 中川裕次君

議員、御指摘のとおり、新聞のほうに34%減ということで、途中、5月24日くらいだったと思います。道の駅のほうから正式に入り込み客数、売り上げ等の報告をいただきました。

一応、一番落ち込みの激しい5月分につきましては、入り込み客で昨年に比べて42.5%の減、売上で39.8%の減でございます。ただ昨年は、椎田南・豊前間だけ不通ということで、非常に観光客の立ち寄りも多く、順調に推移したということで、一昨年、2

6年度に比較しますと、入り込み客で32.8%の減、売上で27.6%の減でございます。同じように道の駅をやっております上毛町の遺跡前さんのほうにも確認したところ、やはり5月は20%弱の前年より落ち込みがあったということで、東九州自動車道の開通と併せて、やはり熊本・大分震災の影響が5月はかなり出て来た。

6月になりまして、うみてらす豊前のオープンと併せて、かなりお客が戻って来ていただいている状況がございまして、この前の土・日あたりは、ほぼ例年に近い売り上げがあったということでございますので、このうみてらす豊前のオープンの良い影響を、今後持続していくように努めていきたいと考えております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

うみてらす豊前のオープンは、これは一時的な経済効果に過ぎないんじゃないかと。それと併せて、いま課長がおっしゃられた地震の影響も、これは必ずしもないとは言い切れないでしょうね。

この道の駅に関しては、市長、思い出しますよね。市長が県議の時代に、そして私が市長の出身母体でもありました豊前青年会議所の会員で、あのときはメンバーが10人程度でしたでしょうか、そして時の神崎市長と御一緒に建設省に、時の山崎拓大臣の大臣室に行きました。当時、道の駅のことを言ったとき、道に駅があるのかと言われた。それだけ認識というのが低かった。

そのような時代に、これは市長が発案されて、よし、ひとつこの豊前の地に道の駅の誘致をやってやろうじゃないかというような経緯で実現に至り、そしてやはり豊前市における農林水産や漁業者、また加工食品の関係各位の方々の売り上げ、経営という意味でも、その販路という役割を今まで果たしてきた。併せて雇用にも結び付き、そしてまた言えば、この豊前市の観光の情報発信の、そのような役割も果たしている、というふうに位置付けているわけでありませう。

したがって、今後、道の駅の経営が落ち込むというようなことになれば、この豊前市にとりまして、当然、うちといたしましても、これは株式会社、出資いたしていますので、恐らく最大株主ですよね。というようなことで、経営状況のいい時代には、やはり株主の配当金を、これは財務課長、いただいた経緯もありますよね。そういうような点から見て、やはりしっかりと、この道の駅の経営の健全化というのを進めていく上で、これはちょっと私のほうから提案させていただきます。

いま椎田南インターからこの豊前インターまでの、この距離は、昨日、建設課長に伺いましたら、7.2と、こういうことです。そしてちなみに、そのまま椎田南インターから、今の10号線バイパスに降り、そしてインターチェンジまでのこの距離が、昨日は分から

ないということでしたが、きょうは木部課長の話では7.9ということですね、課長。

(建設課長、頷く)

ということで、これはほぼ距離的に違いはないわけなんですよ。ただ、仮にこれは小倉から、ジャンクションからずっと乗って来ますね。そしてここがポイントになってきますが、御承知のように、サービスエリア、パーキングエリアがないんですよ。というところを生かして、そして決してインターで降りることがそこまでの通り道にはならないんだということをネクストとしっかりこれは協議した上で、しっかりPRするべきではないかというふうに考えております。

当然この上り車線につきましても、豊前で降り、そして椎田から乗りますよね。逆に椎田南というのは、これは上り側に対しては行けるけれど、下り側に対しては行けないんですよ。下りに対しては、椎田南から豊前方向にも行けないし、逆に豊前インターを過ぎても、これは椎田南で降りられないというような状況にあります。

やはり下り車線だったら椎田南で降りる、そして道の駅を通過して休憩をしていただき、しっかりとそこで消費に結びつけていくというような、これはネクスコとの連携等も必要だと思いますが、私の提案につきまして、執行部の答弁を求めます。

○副議長 尾澤満治君

副市長、答弁。

○副市長 榎本義憲君

議員の御指摘のインターを降りて、例えば豊前インターを降りて椎田はちょっと乗れませんけれど、椎田インターから降りて豊前インター。従前、議員の皆さん方の御提言で、インターを降りたとき、その間は継続して高速道路に乗って行く、そういった取り組みができないかということで、御提言をいただき、交渉もしていただいております。

そのことを重く受けて、これからもそういった取り組みをしていきたいというふうに思います。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

では、この道の駅については、副市長、くれぐれもよろしく願いいたしておきます。

次に、補助金につきましては、これは補助金は小さいところとあれですけど、例えば市老連のほうとか、いろいろな団体への補助金が支出されているわけでありまして。

この中から、今回は、やはり補助金額の大きな団体というのが、シルバー人材センター、そして社会福祉協議会と、この2つの団体になってくると思います。そこで、この2つの団体の経営状況、運営状況についての質問をいたします。

現在、このシルバー人材センターにおける状況、特にこれは委託、受諾ですよ、これ

は。受託事業というののがかなり多いのじゃないかと位置づけておりますので、近年の状況、件数状況ですね、また並びに決算状況等について、お尋ねいたします。

○副議長 尾澤満治君

健康長寿推進課長、答弁。

○健康長寿推進課長 林田冷子君

シルバー人材センターの受託状況について、お答えいたします。

シルバー人材センターの総会資料によりますと、平成27年度の受託の契約金額は、1億3776万3000円、発注件数は4688となっております。

平成25年度から受託事業から派遣事業のほうにスタイルを変えておりますので、受託事業自体の契約金額は減っております。これは、原因としては公共事業の発注が少なくなったということ、また高齢者世帯が増えて1件当たりの単価が減ったことによるということです。発注件数自体は、逆に増加をしております。要望も多くなっているということでもございました。

それから決算の状況につきましては、当年度の当期計上増減額は、257万8396円ということで、健全に運営されているというふうに確認しております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

課長、件数が上がって、請負の方法が変わったというような解釈でよろしいと思うんですが、1点お尋ねいたします。高齢者件数が増加したことによる減少というのは、どういうことか、もう一度お願いします。

○副議長 尾澤満治君

健康長寿推進課長、答弁。

○健康長寿推進課長 林田冷子君

高齢者の世帯が多くなって、今まで1件当たり3万円くらい発注していたものが2万円になったというふうに、1件の単価が少なくなったというふうに聞いております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

課長、参考までにお尋ねいたしますが、その1件に3万円から2万円、その掛かるものは掛かるんじゃないしに、そこの家主の方が、いやいやもう予算が2万円だから2万円でやってくださいと、こういうようなことでよろしいんですか。ちょっと理解ができないんですが。

○副議長 尾澤満治君

健康長寿推進課長、答弁。

○健康長寿推進課長 林田冷子君

やはり高齢者世帯になると、経済状況が厳しくなるということで、1件当たりの発注金額が減ったというふうに聞いております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

いま再質問したと思うんですが、だから例えば家の中の庭の面積がありますよね。それをやるのに、今までは3万円掛かっていたものを、高齢者の2人世帯だったのが、例えば、ひとり暮らしの独居になったというような理由で、もう予算がないから2万円にしてくださいと、こういうような解釈でよろしいんですか、ちょっとその辺が理解できないんですが。

○副議長 尾澤満治君

健康長寿推進課長、答弁。

○健康長寿推進課長 林田冷子君

申し訳ありません。やはり高齢者になって、年金だけになって所得が減っているので、やはり今まで年間に何回か出していた植木の剪定を、数を減らしたりとかいうふうに金額が減っているというふうに、私は理解しておりました。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

私の理解力がなくて、申し訳ありません。要は年間に、例えば3回やっていたものを2回にするとか、こういうふうに回数を減らしてきたと、こういうふうなことだと思います。

生活環境課長、ちょっとあなたにお尋ねしますが、耕作放棄地が御承知のように増えていきますね。遊休地、耕作放棄地、雑種地等、そしてさらなる高齢化が、これはどんどんどんどん進むことにより、恐らく地域住民からの雑草ですね、草に対しての苦情の件数というのは、どんどん増えていると思うんですよ。

その件数とその内容、またどのように対応してきたのか、そのまた対応されたその組織はどこなのか、この辺についてお尋ねいたします。

○副議長 尾澤満治君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

耕作放棄地については、農業委員会のほうと連携して取り組んでいるところなんですけれども、生活環境課のほうは主に宅地、雑種地等を扱っております。

同じ場所に宅地と農地が一緒になっているということであれば、相談を受けたほうがよろうということで、連携を図って情報を共有してお話しをさせていただいているところになります。

所有者さんがお亡くなりになっている場合は、御家族を探して連絡をつけるというかたちですけれども、その案内方法として、農地を管理する団体であるとか、それからシルバーさんの話しも出ましたけれども、そういう業者さんであるとか、草刈り業者さん、岩屋のグループなんかもいろいろありますけれども、そういうのを紹介させていただいて、その中で見積もりを取ってやっていただくという手法を取っております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

そうでしたね。農地は農業委員会事務局長だったですね。どこにおられるのか、同様の質問です。

○副議長 尾澤満治君

農業委員会事務局長、答弁。

○農業委員会事務局長 三善晋二君

耕作放棄地については、平成27年度につきましては、苦情件数が83件来ております。草刈り等、適正管理をお願いして、対応していただいているというところがございますが、中にはやっぱり10件程度は、中々出来ていないという現状もございます。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

いずれにしても、先ほど申しましたように、やはり今後も高齢化が進んでまいります。そしていま申しました生活環境課長、お宅のは、宅地、雑種地等になるんでしょうが、それと農地も含めてですが、やはり耕作放棄地等、ますます増えてくるでしょう。

やはりそのような苦情の対応できるその組織というのは、やはりシルバー人材センターが果たす、この役割というのは大きいんじゃないかというふうに位置付けておりますので、今後の活躍にまた期待したいと思います。

ちょっと1点もれておりましたが、5、6年前になりますか、課長、今の上毛町さんとシルバー人材が合併しましたが、その後の経営の面における改善ができたのかという点、そしてメリット・デメリット等がありました、お聞かせください。

○副議長 尾澤満治君

健康長寿推進課長、答弁。

○健康長寿推進課長 林田冷子君

平成22年から上毛町さんと合併をしております。メリット・デメリットについて、問い合わせいたしましたところ、メリットとしては、自治体補助金が増えたことで、国からの補助も増えて、事業実施が出来ているということ。またエリアが広がったことで、上毛町の指定管理を受けたり、仕事が増えているということがメリットとしてあげられていました。

デメリットといたしましては、上毛町に出張所を置いていますので、金額は大きくはありませんけれども、そこに人件費が掛かるということで聞いております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

よく分かりました。また先ほど言いました、シルバー人材センターの今後の活躍に期待をいたし、この質問は終わります。

そして、これは最後になります。社会福祉協議会ということですが、まずこの27年度の決算状況につきまして、一応私のほうで目を通させていただきましたが、実質の、これは単年度で見たときの収支というのは、やはりマイナス34万円くらいでしたか、そのくらいの赤字で、そしてその補てんと言いますか、内部の留保金と申しますか、余剰金と言いますか、積立金と申しますか、そこが約3000万円ありました。この中から穴埋めをして、27年度の決算の状況は、いま言った内部留保から穴埋めをしているというふうに解釈しておりますが、これに間違いがなければ。お答えください。

○副議長 尾澤満治君

健康長寿推進課長、答弁。

○健康長寿推進課長 林田冷子君

いま議員さんがおっしゃったとおりで間違いございません。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

あと事業内容について、何点かお尋ねいたします。まず、やはり高齢者の在宅の生活支援というのが、やはり社会福祉協議会の主な事業の一環ではないかというふうに位置付けをいたしております。これは聞いた話であります。この事業を取りやめるというような話を伺いましたが、その点について、お答えください。

○副議長 尾澤満治君

健康長寿推進課長、答弁。

○健康長寿推進課長 林田冷子君

議員さんがおっしゃられているのは、いま現在行っている介護保険事業のことだと思わ

れますが、現在行っている職員の退職に伴って、見直しが必要であるということを知っています。理事会の中で協議され、また方向性が出されることだと思っております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

お尋ねいたしますが、この事業につきましては、どこか他の組織、団体が移管して引き継ぐという解釈でよろしいんですか。その辺はどうなんですか。

○副議長 尾澤満治君

健康長寿推進課長、答弁。

○健康長寿推進課長 林田冷子君

まだ理事会の中で、どういった話になっているかは報告を受けておりませんので、御了解をお願いしたいと思います。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

27年度の決算を言いましたが、28年度の予算を見る限り、約560万円でしたか5百数十万円の人件費の上積みというのがなされておりますが、当然、先ほど29年度に、そのような事業の取りやめというような説明がありましたが、この人件費を増額される、その理由について、お尋ねいたします。

○副議長 尾澤満治君

健康長寿推進課長、答弁。

○健康長寿推進課長 林田冷子君

昨年から生活困窮者の自立支援事業というのが始まりましたので、その分で事業費が増えているというふうに聞いております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

そこで、お尋ねいたします。生活困窮者自立支援事業ですね、これは平成27年度にも恐らく780万円くらいでしたか、これは前任者の藤井課長、それくらいじゃなかったかと思いますが、細かい数字はちょっと覚えませんが、ところが、この予算につきましては、受け皿である社会福祉協議会が1月の時点での、この補正予算ということで、収入の分に入れているわけなんです。

この4月から12月までの間に、この事業の実施にいたらなかった原因、そしてさらに減額補正させていますよね。だから社会福祉協議会にいった額が260万円というふうに

私は記憶いたしております。

まずこの経緯について、お尋ねいたします。これは前任者にお願いします。

○副議長 尾澤満治君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

お答えさせていただきます。いま議員から御指摘をいただきましたとおり、当初、予算に既に委託料として事業費は計上させていただいてございました。ただですね、その委託形態につきまして、やはり効率的、効果的な運営と、あと経費負担の軽減という観点から、県あるいは他の自治体との共同委託が出来ないかというところを模索しておりました。

県あるいは県が委託をしている事業所、あるいは近隣の他の自治体とも、そういう観点で協議を行ってきたわけなんですけれども、委託先等について、そういう協議が整わず、直営というかたちでスタートになった。

その後も委託先の検討は継続をしておりました。ただ6月議会でも、議員の皆さんの御指摘をいただいたことを踏まえまして、豊前市単独での業務委託を含めて、再度検討を進めた結果、1月からの社会福祉協議会への委託というところに至ったというのが経緯でございます。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

では、これは今度、担当は福祉課長になりますか、よろしいですか、お尋ねいたしますが、これは事業につきましては、これは報告書を見る限り、1月から3月までの17名の方の相談を受けているということであります。

そこでお尋ねいたしますが、この17名の方の、まず年齢と性別と相談内容をお尋ねいたします。

○副議長 尾澤満治君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 則行修子君

すみません、お待たせしております。

(爪丸議員「時間が掛かりますか。私も持ち時間がありますので」の声あり)

大丈夫です。お答えいたします。

年齢につきましてですが、10代が1名、これは女性です。20代が2名、どちらも男性です。30代はいません。40代が4名、1名が男性、3名が女性です。50代はいません。60代が3名、これは2名が男性、1名が女性です。70代が4名です。これは全員男性です。年齢不詳が3名です。合計の17名で、男性が5名、女性が12名です。

(爪丸議員「内容をお願いします」の声あり)

内容でございます。内容としましては、収入、生活費のことが13件、仕事探し、就職についてが6件、日々の生活のことが5件、住まいについてが5件、家賃や学費、ローンの支払いのことが4件、その他が9件でございます。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

相談を受けた結果、どのように対応いたしましたか。そしてその相談を受けた方々が納得をして帰られたのか、その点について、お尋ねいたします。

○副議長 尾澤満治君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 則行修子君

1月から3月までの期間で、この17名の内に3名の方が緊急を要して生活保護に至っております。相談を終了したケースが10件です。28年度も継続して相談となっているケースが4件ございます。

相談の内容は複合的なものでありまして、心身の問題であるとか仕事の問題、経済的な問題等がありまして、相談に係る時間等も、面接時間にすると1件が2、3時間に及んでおります。また面接の回数も一人が多い方で、平成27年度に17回に及ぶ方もいました。この中で、ニーズの把握や解決に向けて、相談者に寄り添って支援をしていると認識しております。

終了した方につきましても、再度、相談に見えたときは、継続というようなかたちになるかと思いますが、満足をしていただいているかと認識しております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

相談員の方は、そのような専門的な資格等があるのか、そのようなものを持っているのか、どのような方が対応されたのかをお聞かせください。

○副議長 尾澤満治君

しっかり手を挙げてください。

福祉課長、答弁。

○福祉課長 則行修子君

相談員につきましては、社会福祉協議会の職員2名が対応しております。資格につきましては、要件を満たしております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

要は、社会福祉協議会の職員で、27年度には対応できたと、このようなことですよ。というのであれば、私が疑問に思うのが、何で、あえてこの28年度に新たに人件費を増やそうとされているのか。元々のこの事業の財源というのが、前回ですか、お聞きいたしましたが、市の持ち出しが確か4分の1ということでよろしいんですかね。そうですね。後はもう4分の3が国費と県費の補助事業であるから、この際のせてしまえ。そしてのせてしまって、その充実した事業ならよろしいんですけど、実際、生活困窮者、本当に困っている方々が求めているのは、やはり経済的な支援じゃないかと思うんですよ。

そのようなことを、わざわざ予算を付けてまで、昨日からもきょうも、いろいろ豊前の財政の問題でもありましたが、市長が御答弁されておりますが、経常収支比率が非常に悪化し、やはりもう余力がないという、そのような状況の中で、補助事業であるから何でも付けるといえるのはいかがかということ。

そして私は、この2月の予算決算委員会の最終日にも申しましたが、特に補助事業です。補助事業についての中身の検証というものをしっかりやっていただき、見直すべきところは、しっかり見直すべきだということを、しっかり私は申し入れさせていただいたわけがあります。

今までは、これは一般会計のみに重視し、これは地方財政健全化法にさかのぼりますが、やはりその発端になったのは夕張市じゃないでしょうか。あまりにも一般会計のみを重視したために特会や企業会計や、そうでしょ、一部事務組合とかじゃないですかね、第3セクター等のほうに目がいかなかったというものと同様に、やはりこのような大きな豊前市のほうから補助金が出されている。

そしてその生活困窮者の事業についても、やはり市の持ち出しが4分の1あるというような点も踏まえて、しっかり事業検証をするべきだということを、しっかりこれは申し入れさせていただきます。

社会福祉協議会ですね、この中のトップにおられる方というのは、当然会長と思えますが、この会長は非常勤とお聞きいたしております。しかし中身を見ると、60万円の報酬を取られるのであれば、年間を通じて何日出勤されているのか、その点について把握されておるのであれば、御答弁を求めます。

○副議長 尾澤満治君

健康長寿推進課長、答弁。

○健康長寿推進課長 林田冷子君

社会福祉協議会の会長は、社会福祉協議会非常勤役員等に関する規定という中で、原則として、毎月4日を勤務日とする、また午前9時から12時までというふうになっており

ます。

そして出勤日数に日額1万円を乗じた額で、月額5万円を上限というふうになっております。昨年度で言いますと、月当たり19日出ているというふうに聞いています。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

副市長にお尋ねいたしましょうか。非常勤ということではありますが、私もこの福祉には大いに関心のある者であります。そして、やはり我々議会というのは、住民の負託を受けております。

いま東京都におきましては、御承知のように舛添知事の集中審議等、昨日もありました。北川正恭先生もおっしゃっていましたが、やはり都議会というのは、都民の声の代弁者である。同時に私ども市会議員も、やはり市民の声の代弁者であるわけであります。

そのようなことで、私は社会福祉協議会の会長に何度もお電話を差し上げ、やはりこのような事業について、会長のお考えをお聞きしたいということで、年度も電話いたしましたが、担当に出られた職員は、どこにいるか分かりません。何度掛けても1週間ほどずっと不在で来ない。この点について、副市長、あなたの御見解を求めます。いかがですか。

○副議長 尾澤満治君

副市長、答弁。

○副市長 榎本義憲君

当然、社会福祉協議会の会長でございます。事業の内容、あるいは議員の皆さん方から質問を受けたときには、職員が連絡を取り、その対応をすべきだと思います。1週間以上も、そういった態勢ができないということであれば、うちのほうから指導をしていきたいと思っております。以上でございます。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

市長ね、私は、今回、社会福祉協議会について、このような質問をするには、市長は恐らく御存知ないでしょう。過去ですね、この社会福祉協議会におきまして、職員の休日の不正出勤受給という、これは大きな不正行為があったんです。恐らくこれは市長は御存知ないでしょう。ちょっと答弁を求めますが、その辺について。

○副議長 尾澤満治君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

そのような事案が発生していたという事実を、認識はしておりません。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

副市長は、当然、御存知でしょ。

○副議長 尾澤満治君

副市長、答弁。

○副市長 榎本義憲君

内容を全て知っております。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

過去のそのような不正があったという点を踏まえて、しっかりとその組織の会長なり事務局長が、上司である局長がしっかりと取りまとめていくべきであるわけであります。

参考までに、その当時のその事務局長というのが、初山監査の前任者に当たり、副市長、あなたと共にこの監査の席を並べた経緯もあるということも重ねて申し上げておきます。

だから市長、私が申し上げたいのは、役人の、市役所のOBで仕事に長けているからOKなどと甘い考えは、絶対に持たないでください。消防がそうであったように、消防であれだけのやはり不祥事があったのは、長年にわたって経理を担当されたという、やはりそこに監視の目が行き届かなかったということと同様に、やはり社会福祉協議会というのは、これは人事はないじゃないんですか。担当の今の係長が、恐らく事務方をずっと仕切っていくんじゃないかと。前回の不正もそういったところだったんですよ。

であるのであれば、上の局長がしっかりしておかなければ。そうでしょ、しっかりそこを監視すべき、その局長がいい加減であって、その当時の会長は立派な方でした。責任を取って辞任されたという、過去の経緯を、まず私はこれは市長に、しっかりそのことを分かっていたら、そしてこの社会福祉協議会ですね、今後、私どももまた注目いたしてまいります。

それと後これも提案ですが、やはり合理化という意味でも、やはり近隣の社会福祉協議会と合併ということも考えられてもよろしいのじゃないかと思いますが、その辺については、副市長、御答弁を。

○副議長 尾澤満治君

副市長、答弁。

○副市長 榎本義憲君

社会福祉協議会の人件費の一部でございますが、市の約1700万円を超えるような額を助成しております。そういった観点からも、行政が重く受け止め、いろんな他の社会福

祉協議会をしっかりと視察をし、意見を聞き、今後の対応について検討したいと思います。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員。

○12番 爪丸裕和君

それでは、やはり以前にもお話ししました、やはり市長、茶漬けとすき焼きの話をされましたが、塩爺の話に戻りますけど、やはり同様でありますので、特にこのような機関において、しっかりとこれは監視の目を強化していただきたいということであります。

これは、やはり副市長に申します。市長はやはり対外的に公務多忙というふうに、私は見受けておりますので、このような点については、副市長、あなたがしっかりと目を光らせ、やはり補助金を出しているのであれば、しっかりとその団体の事業の中身を検証し、提言すべきところはしっかりと提言していただきたいと思います。

最後に一言いただいて、終わります。

○副議長 尾澤満治君

副市長、答弁。

○副市長 榎本義憲君

市長は当然、対外的に豊前市の発展のために動いていただいております。内部を仕切る私といたしましては、そういった団体等にお金を出す、いろんな補助金を出していくことについて、非常に財政状況が厳しいわけがございますから、しっかりと精査をし、そういった問題が起こらないように対応していきたいと思います。以上でございます。

○12番 爪丸裕和君

よろしく申し上げます。終わります。

○副議長 尾澤満治君

爪丸裕和議員の一般質問が終わりました。

ここで、議事運営上、暫時休憩いたします。

再開は、放送でお知らせいたします。

休憩 15時54分

再開 16時10分

○議長 磯永優二君

休憩前に引き続き、会議を開きます。

これより、本日の一般質問に対する関連質問に入ります。

なお、関連質問は答弁を含め、一人10分以内です。関連質問はありませんか。

黒江議員。

○4番 黒江哲文君

それでは、秋成議員の質問に対する関連質問を数点したいと思います。

まず、1点目が治安について、三毛門地区の駐在所設置ということでありましたけど、この件のつきまして、また地元等でもですね、しっかりとまとまって声を挙げていくよう、我々も活動していきたいと思っておりますので、市長を中心に、また副市長、担当課長には、御尽力をいただきながら、強い要望をしていただきたい、ということを重ねてお願い申し上げます。

続いて、観光について、また、地方創生についての観点から数点提案したいというふうに思います。

地方創生、豊前市でも総合戦略策定ということで、人口データも出ておりました。2040年に2万人の人口確保と掲げておりましたが、現実には大変難しい問題かというふうに思います。人口の高齢化率におかれましても、豊前市も65歳以上が34%という高齢化が進む中の状態であります。

若者世帯の定住に向けての環境整備が重要ではないかというふうに思います。若者、子育て、働く場所の確保が重要だと考えますが、以前、私が市長へ質問した時には、就労は民間のことなので行政の取り組みは難しい、と答弁をいただきました。

そこで、御提案になりますけど、北九州では地方創生の一環で、ウーマンワークカフェということを新設いたしました。事業目的は女性と若者の定着などにより、社会動態をプラスにしていき地方創生の成功モデル都市を目指す、とあるわけではありますが、事業内容としては、就職支援、キャリアアップ支援、子育てと仕事の両立支援、創業支援と行政サービスの保育から子育てまでがワンストップになった、という施設であります。

北九州市では、子育て助成ということと、子どもということでもありますけど、私が前回提案したのが、就労支援と会議所、簡易事業所等の企業、受け入れ側の連携と支援でありました。さらに住環境の設備を含めて、行政、企業からの支援で定住促進を図れば、とのことでありましたが、まだ、市長の方は、就労は難しいと考えているのか。私は、そのようなことをしないと本当の定住の結果は出ないのではいか、というふうに考えるところであります。市長一言お願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

確かに、黒江議員さんから以前そういう質問をお受けしたときに、中々直接的にという思いがありましたので、直接的に就労の場を我々がつくるというふうに理解しております、中々難しいと思いました。

そういう意味では、今お話しがありましたように、地域の企業で求める人がいる。片方で空いた時間を持っている人がいる。スキルがある。この人たちを出会わせるのは、今いわゆる職業安定所だけでございますが、そういうカフェをつくった北九州がそういう方向

をめざしている、特に女性のパワーを生かしていこうということだろうと思いますが、女性の子育てをしながらでも空いている時間、もしくは子育てが終わった方々のスキルをもう一度社会に復帰して使っていただきたいという、そのお世話役としての何と言いますか、マッチングの場所として、そういう場所というのが職安だけではなくて、市役所、もしくは市の関係するところで持つというのは一つの案ではないかと、いい提案だと思います。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○4番 黒江哲文君

ぜひともお願いしたいと思います。

この件につきましては、北九州市に私も確認をいたしました。子育て助成への支援事業ということでありますけど、北九州連携中枢都市の枠も視野に入れたいということでありましたので、その辺を担当課長にお伝えしておきます。

そして、もう1点ですね、この北九州連携中枢都市についてですね、北九州市では平田議員も言われておりましたが、北九州市シティプロモーション都市圏本部を交通便宜性の高い所に移転するための経費や、首都圏における移住相談窓口を設置するための経費として、平成28年度当初予算で、4100万円を計上されたということであります。

ここで、北九州市議会の一般質問でも上がっておりましたが、内容は、北九州市は人口減少対策として、首都圏からの移住・定住を促進中、従来からの企業誘致と併せて本腰を入れてPRするため、首都圏本部を有楽町、銀座方面への人通りの多い所に10月をめぐりに移転。移転先の物件は、200平米を超え単にオフィスだけでなく、様々な企画が考えられる。北九州市だけでなく連携中枢都市、全体で人口の維持に努めるべきではないか。圏域自治体がそれぞれ魅力を発信して協力して首都圏でのPRをすることは、大いに意義がある。この、北九州シティプロモーション本部のスペースを連携中枢都市圏の各市町村と連携して活用しては、というふうにあがってきたわけであります。

その後にはですね、苅田町議会とそれと行橋市議会と一般質問が続いたようであります。内容につきましては、近隣と連携するので各市町村の経費削減につながるのではないかと、ということでありました。

また、内容はですね、共同移住PR、近隣市町村のPRブースの設置。あるいは、セミナーや相談会の開催などがあがったわけでありますが、豊前市も単独では難しいと思います。首都圏での豊前市のPRが出来るということは、チャンスではないかというふうに思いますので、ぜひとも中枢都市の連携の枠で、積極的に取り上げていただきたいというふうに思いますけど、市長の考えをお願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁

○市長 後藤元秀君

北九州市さんが積極的に取り組んでいただいております、シティプロモーションの事業、これは、中枢連携都市を構成する私たち関係自治体としてもですね、しっかりと情報を得て、他の自治体とも情報交換しながら、前向きに進めていきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員

○4番 黒江哲文君

担当課長、市長もそう言われていますので、ぜひ積極的に中枢都市圏の行動を、お願いいたします。

最後に、近隣との連携という観点から、質問いたします。

東九州自動車道開通に向けて、素通りされないよう、何か打つ手はないかということで、議会も1市4町が連携して新中津街道推進会を立ち上げております。さらに、商工会議所、商工会、京築JA、豊築漁業組合の方々の協同で、国県、西日本高速道路株式会社へと要望を行ってきたわけでありまして。

内容は、みやこインターから上毛インターまでのわずかの間に20数キロメートル余りの区間に6箇所のインターチェンジ、全国には例がないと。一旦、高速道路を下りても一定時間内に再び高速道路に戻った場合、引き続き、高速道路を利用したものとみなす、このシステムの導入の内容であります。

いかに降りていただき、経済効果につなげるかということにつきましては、とてもハードルの高い要望ではありますが、さらに、近隣と連携して引き続き活動を行っていかうという、議会では考えであります。その推進会の会長は、豊前市が代表して磯永議長が務めております。

そこで市長に、ぜひとも、きょうは近隣の話もありましたけれど、近隣と連携して、自治体を挙げて、出来るか出来ないかというよりも、挑戦していきたいということの中で、積極的に前向きに立ち上がっていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

本当に、東九州自動車の開通の時代になりました。通り抜けだけされるということでは、協力してきた価値がないと。やっぱり、私たちはおっしゃるような方向も視野に入れながら、協働して取り組んでいかなければならないと思っております。

豊前市としても前向きに考えていきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○4番 黒江哲文君

ぜひともよろしく申し上げます。以上です。

○議長 磯永優二君

他にありませんか。

郡司掛議員。

○3番 郡司掛八千代君

私はですね、宇島駅を・・

○議長 磯永優二君

どなたの関連の質問かということをおっしゃってください。

○3番 郡司掛八千代君

秋成議員の観光問題に関連して、質問いたします。

私は、宇島駅に看板を立てて、豊前市のあじさい祭りとか、神楽とか、いろいろな、いま宣伝していますよね。それを、あそこに看板的に並べて、乗っている乗客の方が止まっている間に、ああ、豊前市はこういうことを今しているんだなというのを見て、そして、ああ、豊前市だったら、これ面白いから降りて見ようか、という案も、してもいいんじゃないかと思っておりますが、どうでしょうか。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 中川裕次君

議員、御指摘のとおり、降りないと、中々、観光案内のポスターもパンフレットも見られないという状況でございますので、御提案の内容については、JR宇島駅と、JRのほうと協議をさせていただきたいと思っております

(郡司掛議員「よろしく御検討のほど・・」の声あり)

○議長 磯永優二君

挙手を、手を挙げて下さい。郡司掛議員。

○3番 郡司掛八千代君

御検討のほど、よろしく。皆さんが止まっている間に見られるように、大きく、よろしくお願いたします。

○議長 磯永優二君

他にありませんか。

平田議員。

○5番 平田精一君

福井議員、鎌田議員の質問に関連して質問させていただきます。

多くの方が今回、し尿処理場のことで、質問されていますけど、市長、安価という言葉

を度々出していますけど、行政が、やはり生活インフラを守るのが第一だと思います。このままだと、そのインフラさえ守れない状態になるのではないかと考えていますので、どう思われますか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

御心配をかけまして、申し訳ありません。安価というのは、実は公共下水道への投入が安価ということで申し上げました。

毎年じゃないですが、26年度、2億5000万円ほどの赤字があります。この赤字を少しでも少なくするように脱退した方がいいという意味での安価というのも含めております。

ただ、理解をしていただくには努力が必要でございますので、しっかりと汗をかき努力をしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○5番 平田精一君

あくまでですね、安価って言われるんならですね、ちゃんと数字で示すべきだと思います。長寿命化はもう、一応中止になりましたんで、下水につなげばどれくらい差がある、長寿命化でやったらこれくらい掛かりますよと、ちゃんとした数字を示さないと誰も理解出来ないんですよ。

安くつきますよ、安くつきますよでは、もう市民の皆さんも絶対納得しないと思いますので、早急に、いつ頃までにその数字を出していただけるのか答弁していただきたいと思っています。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

まず、環境施設組合の議会の方で、これまでの長寿命化が5月で終わりましたので、それをまず中止すること、そして、公共下水道への流し込み連結を認めていただくという手続きをしまして、そこからコンサルタントに具体的に経費の、お金の問題、今アバウトでしか分かりませんので、細かく専門家の力を借りて算出する。そのうえで、皆さんに提案したい、提案するという流れになるとと思いますので、何月にとということまでは、ちょっと議会が開かれない限り出来ませんので、御理解をいただければと思います。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○5番 平田精一君

それも含めてなんですけど、やっぱり上毛町、吉富町も絶対入ってもらわないと豊前市一本ではもう財政負担がなおさら上がってくるわけですから、しっかりやっていただきたいと思います。

○議長 磯永優二君

他にありませんか。

鈴木議員。

○6番 鈴木正博君

鎌田議員の、うみてらすの件について関連質問いたします。

鎌田議員の質問の中に設計の件で上がっておりますけれども、随契ということでありました。確認しますが、随契ですか。

○議長 磯永優二君

農連水産課長、答弁。

○農林水産課長 生田秋敏君

はい。随意契約です。

○6番 鈴木正博君

いろんな事情があると思うんですけれども、うみてらすについては、基本設計、実施設計、それから工事管理の要するに設計事務所が入っていると思います。

実際にいろんな条件があって出来ないようであれば、基本設計はですね、補助金等の青写真の問題で、それから概算の問題で間に合わなければそれで済むと思うんですね。しかしながら実施設計でやるということは、非常に問題があると思います。

それから、金額面でも実施設計については、何千万円という金額になると思うんですね。それを随意契約でやるというのは、いかがなものかと思います。

○議長 磯永優二君

農林水産課長、答弁。

○農林水産課長 生田秋敏君

すみません。私の言葉が足らず御迷惑をおかけして、すみません。随意契約は基本設計のみで、実施設計等は指名競争入札で行っております。

○議長 磯永優二君

鈴木議員。

○6番 鈴木正博君

財政課長にお願いしたいんですけれども、よほどのことがない限りですね、随意契約として認めてもらいたくないわけですね。

それは、こういう大きな工事は、基本的な計画からですね、きちんとして立ててもらわ

ないと、間に合わないからということで随契ということになりますと、それはちょっと大きな工事をやるについては、あまりにもずさんな、はっきり言ってプロセスになるんじゃないかと思うんですよね。

今回のうみてらすについても、いろんな問題があがっていると思うんですね。ですから、そういう面で設計事務所を選ぶことについては、はっきり言って指名権の問題でありますから、そこ辺は言いませんけれども、そういうことで、設計事務所も私も聞いたことのないような名前が入っているものですから、質問しました。

そういうことで、大きな工事については特にですね、熟慮の上で計画をしてもらいたいと思います。以上です。

○議長 磯永優二君

その件については、産業建設委員会に資料を提出させます。

基本設計を随契でした理由、そして金額。1億5000万を超えなければ議会はチェックが出来ません。過去に遡るわけではございませんが、今度の産業建設委員会までに、その資料を提出してください。

ようございますか。いいですか、それで。

(農林水産課長、頷く)

他にありませんか。

以上で、一般質問に関する関連質問を終わります。

本日の日程は全て終了いたしました。よって、本日はこれにて散会いたします。

皆さん、御苦労さんでした。

散会 16時28分